

清末小説から 103

2011.10.1

商務版「説部叢書」研究の昔と今 1	樽本照雄 1
《醫學小説 鑽崇》の原作.....	渡辺浩司12
『清末民初小説目録』第4版問答(下).....	樽本照雄16
傅兰雅“时新小説”征文获奖作品序文鈔(上).....	刘 德隆26
2010年世界林纾文化研究文献目録.....	苏 建新30
	清末小説から25、35

『清末小説』第34号を発行しました。目次(本誌25頁)をどうぞ。本季刊誌はネット上での罫

清末小説研究会 日本〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 8 番4-202 樽本照雄方

商務版「説部叢書」研究の昔と今 1
不思議な版本

樽 本 照 雄

本稿では、商務印書館版「説部叢書」(以下、「説部叢書」)に収録されている謎の版本を紹介する。

ひとつは、最近中国で刊行された刊行物にその表紙写真を見ることができる。もし、文字だけの記述であれば、誤植ではないかと疑う種類の書籍だ。「説部叢

書」の成立過程を知る人ならば、疑問を持つだろう。なぜ「第一集第八編」なのか。同じ集編番号を持つ別の作品があるではないか。

その1冊をここに突然示しても、何のことだか理解されない恐れがある。前置きが長くなる理由だ。

「説部叢書」という名称は、清末民初の翻訳に興味をもつ研究者ならば、誰でも知っている。だが、成立の過程を含んだ詳しい状況の理解は、研究者のあいだで必ずしも共有されてはいないだろう。最近中国人研究者が公表した文章を読んで、私はそう感じる。

状況を理解してもらうためには、「説部叢書」の成り立ちから話さなければならぬ(過去の文章と重なる箇所がある)。どういう研究があるのか、簡単に述べる。少し複雑な内容になる。事実がこみ入っ

ているからしかたがない。ご了承いただきたい。

「説部叢書」は、商務印書館だけが使用した名称ではない。ほかの出版社も刊行している。改良小説社、小説進歩社、群学社らがその発行元だ。しかし、生き残ったのは商務印書館だけだった。該社の「説部叢書」全体は、発行が21年間にわたって継続されている。清末の1903年から民国になった1924年まで。今では「説部叢書」といえば商務印書館の印象しかないかもしれない。それは、翻訳小説を集めて特色がある。しかも、合計322編(種と同じ)という多数を収録して規模が大きい。当時、ほかには例を見ない。現在も存続する出版社ということもあり、言及する研究者は多い。ただし、言及することが研究と結びついていないのが実状だ。

大型叢書である。それはゆるやかにはじまった。徐々に形を整えながら、初期にはいくつかの変更が加えられた。編集上の試行錯誤があったことがわかる。

日本におけるこれまでの研究

「説部叢書」は、作家、知識人の多くが海外文学への関心を抱く窓口となった。広く知られた事実である。叢書のうちのこれが読まれた、あの作品が影響力をもった、林紓らの翻訳も収録されていた、と語られる。魯迅周作人兄弟が好んだ、郭沫若が回顧して賞賛した、などと部分的に言及されることが多い。著名なのは確かだ。

しかし、翻訳書がどのように「説部叢

書」としてまとめられていったのか。知ろうとすれば、これはむづかしい。商務印書館自身は、その詳細を説明したことがない*1。叢書そのものに焦点をあてて追求した研究論文は、書かれていなかった。1981年以前には中国を含めて「説部叢書」の詳細を解明しようとした文章はないといっている。

唯一の例外が、中村忠行論文(1981)だ*2。

それは、中村個人が長年にわたり収集した資料を積み重ねたうえに組み立てられている。

中村論文の公表は、どの国の研究者よりも早かった。しかも、詳細にして学術的価値の高さを備えている。今でも古びてはいない。

中村は叢書の成立について、「既刊のものを任意に拾い、叢書に仕上げたことを示すものである」(287頁)と指摘した。私はなるほどと思う。最初から用意周到に編集方針を定めて計画的に刊行したわけではない。やや場当たりのことを進めた。これが、叢書の構成変化、あるいは表紙、扉にいくつかの変化をもたらした。これらの違いは、特にその初期において顕著だ。

中村が注目したのは、書籍の組版、表紙、扉などの意匠だ。作品は同じ本文であるにもかかわらず、包む外側が異なっている。第1形式から第3形式に分類する。第3形式をさらに5種に分ける。細分しなければならぬほど多様な違いがあるという意味だ。

こまかい説明はあとからするとして、

結局のところ中村が強調したのは、ひとつの事実だった。

彼は「絶対に混同してはならない」(297頁)という。なにを混同してはならないのか。「元版」と「初集本」の区別だ。「元版」とは、第一集から第十集まで、各十編で全百編の作品群である(後述)。「初集本」とは、そののち覆刻して改称したもの(296頁)。この両者は厳密に分かれていると説明した。この指摘は、きわめて重要である。それまで誰も言ったことがない。

従来、「説部叢書」は、変化のないひとつの集合体のように受け止められていた。それを前提にして個々の作品に言及するというのが一般的だった。だが、中村論文は、「説部叢書」の成立過程を追求したうえで、叢書内部で改組がなされたことを立証する。

中村論文には、基本的な見方がこの時すでに提出されている。元版と初集本は区別する、である。資料も多数かかげて問題の所在を明らかにした。精密で奥の深い立論だと私は考える。1981年時点で群を抜いている論文だ。30年後の現在でも新しい。

その後、樽本論文が公表された*3。

こちらも「説部叢書」の作品構成、また表紙などの違いを問題にする。基本的に中村説をふまえている。同じなのは、元版と初集を分けたことだ。違うのは、簡略化して元版をふたつに分類する。時間の経過を考慮して少し整理しなおした。また、それまでの「説部叢書」研究について紹介した。それが読者の理解を助け

ると思ったからだ。

「説部叢書」の成立過程を以下に簡単にまとめておく。本稿で紹介したい書籍の「説部叢書」における位置づけをするためだ。

「説部叢書」の成立

商務印書館が外国小説の翻訳をいくつか刊行したとき、それらをまとめる特定の名称、または枠組みは存在しなかった。その発想はなかったし、必要も感じなかっただろう。取り立てていうまでもない。一般の出版社にとってはそれが普通のことだ。

単行本で刊行される。あるいは『繡像小説』などの雑誌に連載された。それぞれの翻訳作品は、バラバラに存在していた。ある作品など、雑誌連載をそのまま抜き出して線装本に仕立てられている。これを「1)先元版」という(別掲の表1「変遷一覧」を参照)。のちの元版グループに先行する。商務印書館の自社広告では、最初は「新訳説部叢書」とっていた。これには小説以外の翻訳書を、また雑誌『東方雑誌』も含めている。すなわち、その意味は新訳の書籍群だ。説部叢書といっても厳密に定義しているわけではない。普通名詞の説部叢書だとわかる。後に出現する固有名詞の「説部叢書」は、この時点では影も形もない。

翻訳作品が増加するにしたがい、商務印書館はこれらを特別に「説部叢書」という名称で一括りにすることにした。作品の刊行年を見ると、それは1903年頃から始まったと考えられる。その時期、商

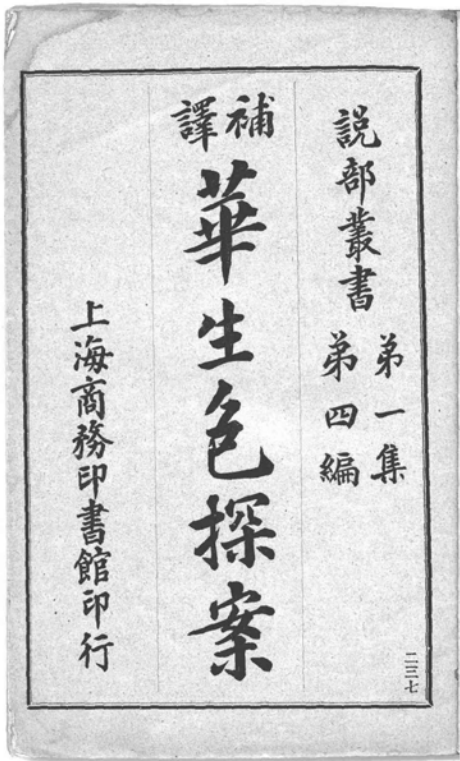


図1 元版1型 毛筆

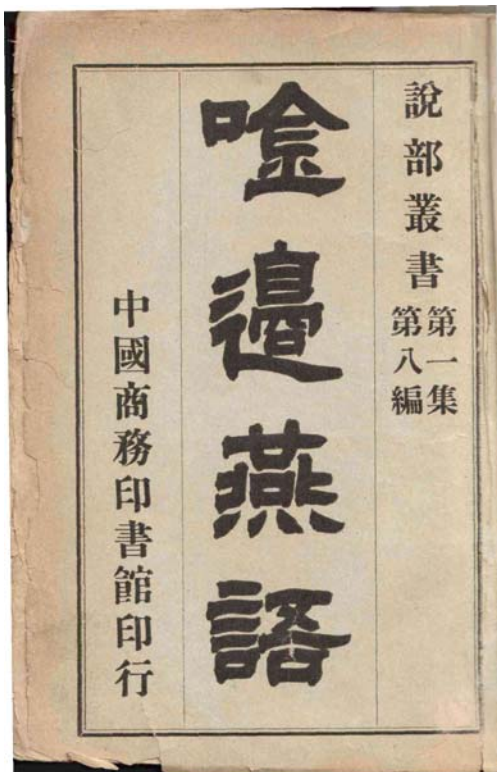


図2 元版1型 活字併用

務印書館は、日本金港堂との合併計画を水面下で進行させていた(合併が成立したのは1903年11月)。一集を十編でまとめ、二集、三集と順次増やしていく(後のものと区別するため漢数字を使用する)。これが「元版」だ。

「元版」を表紙の違いによって2分する。「2)元版1型」と「3)元版2型(タンポポ文様)」である。

「2)元版1型」は、表紙、あるいは扉に毛筆、活字で「説部叢書/第 集/第 編」と縦書きで示す(図1は毛筆。図2は活字併用)。既刊作品の本文はそのままにして、表紙、扉を取り替えるだけでよい。作品数が増加すれば、叢書らしい形になっていく。厳密な刊行計画があったとも思われない。編集方針があるとなれば、翻訳作品を中心にするくらいのことだった。

「3)元版2型(1905-08)」は、新しい表紙(タンポポ文様。横組みの書名)が付与された作品群を指す(図3は中央の第一集第八編『吟邊燕語』に注目。図4は該書を別の本から引用した)*4。

この『吟邊燕語』を例にとる。図2で示した元版1型(第一集第八編)が、図4の元版2型(第一集第八編)に表紙をかえていることがわかる。カッコ内に記入しているように集編番号は同一だ。内容はおなじで、表紙だけが異なる。「第一集第八編」という集編番号にご留意ねがいたい。他の作品との関係で問題になる。

元版2型には、タンポポ文様の表紙を持ちながら、元版1型を扉につける作品

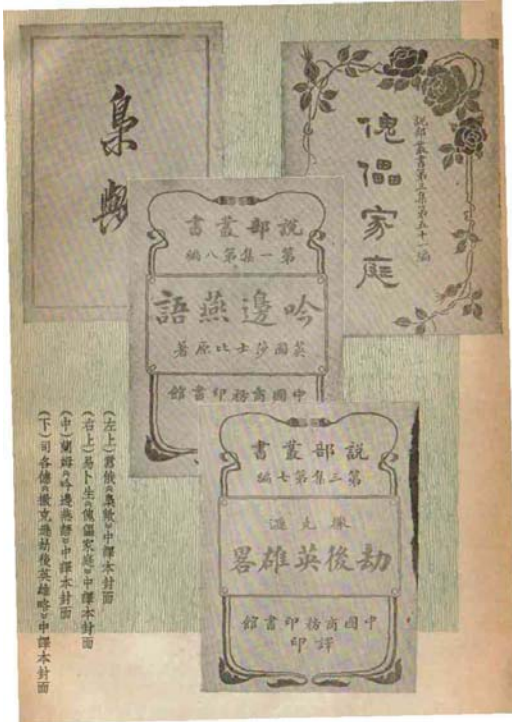


図3



林纾译莎士比亚故事集《吟边燕语》书影

図4 元版2型 タンポポ文様

もある。過渡期の現象だろう。新版であるのに旧版を扉に配置する。その事実が、ゆるやかな変更であることを示している。

第一集から数えて第十集までになった。各集がそれぞれ十編を収録して合計百編である。

元版2型全十集が完結したのは、1908年ころだ。ひとつの根拠は、商務印書館の自社広告だった。全十集百編(128冊)を特製の箱にいれて販売するとうたっている。『東方雑誌』第5年第9期(1908.10.19)、また『上海指南』(1909)などに見ることができる*5。

元版2型タンポポ文様「説部叢書」(128冊)の一括販売はしばらく続いた。『新聞報』(1909.1.25付)に木箱売りを宣伝する商務印書館の広告があるという*6。また、『東方雑誌』第8巻第9号(1911.11.15)にも同じ広告が掲載されている。

1908年に元版(十集百編)が完結した後は、どうなったのか。

別の作品を収録しながら叢書は引き続き出版されたのだろうか。仮に第十一集だとして、刊行されたかといえば、それはなかった。十集完結後の約5年間は、箱売りを行なうと同時にバラ売りを続けたただけだ。作品によると三版、四版と印刷を重ねている。読者に広く支持された証拠といえるだろう。元版の刊行年を見ると、およその把握しかできないが、その重版の時期は1913年だ。

例外がある。第四集第十編『寒牡丹』(1906.3初版 / 1915.6三版)だ。集編番号からすれば、以前の元版2型タンポポ文様で出たことになる。ところが、その三



図5 元版2型 タンポポ文様

版は1915年の刊行だ。同じ作品が「説部叢書」初集第41編として再版されたのは1914年4月のことだった。刊年を見れば、初集本のあとに元版が出た。つまり、古いはずの元版と新しい初集が混在している。商務印書館による出版管理は、厳格ではないように思われる。

1908年の元版完結から辛亥革命をはさんでこの1913年まで、既刊の作品群をかかえたまま販売営業を続けていた。新しい企画はまだ出てきていない。

変化が見えるのは、まさにこの1908年から1913年の間である。「説部叢書」の内部でいくつかの変更が実行された。

ひとつは改組だ。もうひとつは元版百編を「初集」と改称したこと。さらに、表紙を一新して今ではおなじみのリボン

文様になった。

改組を示す根拠は、3点ある。

1点目は、作品の差し替えがある。第一集第一編『佳人奇遇』(図5 タンポポ文様)をおろして初集第1編『天際落花』にかえた。第一集第二編『経国美談』を入れ替えて初集第2編『劇場奇案』を収録した。

『佳人奇遇』と『経国美談』は、ふたつとも日本人の原作だ。それをいうなら、割り込んだ『天際落花』の原作も日本の黒岩波香訳本にちがいない。なぜ入れ替える必要があったのか。1911年の辛亥革命しか思いつかない。中国において、『佳人奇遇』と『経国美談』は、ともに日本人の作品として有名だった。時代背景を考慮すれば、叢書の先頭が2作品ともに日本人のものでは具合が悪い。それを避けるためかと考える。目立つ2作品だけを入れ替えた。そのほかにも日本語原作の作品を収めている。だが、それらについては知らん顔をして発行をつづける。

2点目は、作品名が変更されている。第一集第四編『補訳華生包探案』が初集第4編『華生包探案』にかわった。

残る3点目は、作品の移動である。『魯濱孫飄流記』の正統に関する。『魯濱孫飄流記』は第四集第三編にある。その続編『魯濱孫飄流続記』は第五集第三編だった。正統でありながら第四集と第五集に離れて配置されていたのだ。それを再編してひとつにつなげたというわけ。つまり、続記を前に移動させた。集編番号は、変更して初集第34編となる。こち

らはわかりやすい。作品の移動にともない、初集第35編から第43編まで集編番号がずれた*7。

改称とは、それまでの十集十編全百編をまとめて「初集」にしたことをいう。集編番号は第1編から通し番号で第100編までとなる。機械的に置き換えるだけ。第二集第一編であれば、初集第11編である。

表紙のリボン縁取りと縦組みの書名は紅色。「説部叢書」と商務印書館などを表示する箇所は藍色だ(図6)。図6の『吟邊燕語』は、見てのとおり初集第8編になる。もとの集編番号が第一集第八編だった(図7は参考までに「林訳小説叢書」)。

「説部叢書」といえば、この初集(リボン文様)が掲げられることが多い。それだけなじみが深い。しかし、元版を無視しては「説部叢書」の成立過程が見えなくなる。

以上の改組、改称、表紙一新は、事実として存在する。書籍そのものがそれを証明している。では、実施されたのはいつか。

「初集」に改称し表紙を新しくリボン文様にかえたのは、1913年だと考える。しかし、改組については、特定することが困難だ。いま、1908年から1913年までの間としておく。作品の差し替えが辛亥革命に関係しているとすれば1911年以降となる*8。

以上を「4)初集本(1913)」(表2:「説部叢書」の改組を参照)という。

転換点は、1913年だった。

初集本は、100編をまとめて1914年4



図6 初集 リボン文様

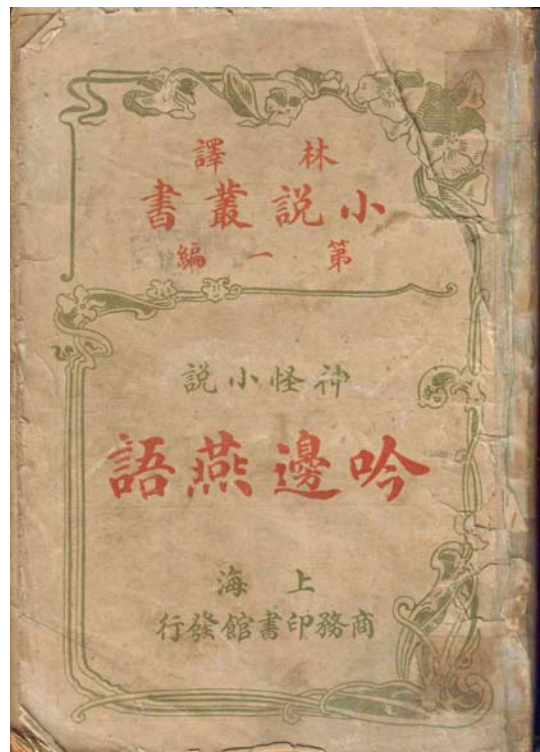


図7 林訳小説叢書

月に再刊した(表1:一覧の「5」初集100編再版(1914.4))。奥付にはそれぞれの出版年などを示し「中華民國三年四月再版」と記す。1913年以前の版本が四版、五版であっても1914年4月再版と表示する。大きな変更が行なわれた1913年からすれば、1914年の重版は再版ということになる。改版の数字が矛盾しているように見える理由だ。

再版の理由はどこにも書かれてはいない。だが、1914年4月という年月が手がかりになる。商務印書館をとりまく当時の状況から判断すれば、ひとつの事実が自然と浮かびあがってくる。1914年1月は、それまで実質10年間継続された商務印書館と金港堂の合併が正式に解消された時期だ。商務印書館は、合併解消を記



図9 第3集



図8 2集



図10 第4集

表1：「説部叢書」の変遷一覧

- 1) 先元版 未組織 個々の翻訳 雑誌連載、あるいは単行本
 - 2) 元版1型(1903より) a 毛筆(図1)、b 活字併用(図2)
『中国近代現代叢書目録』777-780頁所収。該目録は、第一集第三編から第十編を欠く
 - 3) 元版2型(1905-08) 表紙の統一(タンポポ文様 横組みの書名。図5)
扉に元版1型bを併用するばあいもある
1908年元版百編完結 箱売りは1908、1909、1911年に実行
注：付建舟が「十集系列」と称するのは、上の「2)元版1型」と「3)元版2型」だ。両者を区別しない
-
- 4) 初集本(1913) 改組(時期不明)、改称、表紙一新(リボン文様 紅色縦組みの書名。図6)
作品の差し替え 第一集第一編『佳人奇遇』 『天際落花』
第一集第二編『経国美談』 『劇場奇案』
作品の改名 『補訳華生包探案』 『華生包探案』
作品の移動 『魯濱孫飄流続記』第五集第三編 初集34編(後年の商務印書館広告では、移動させない目録がある)
 - 5) 初集100編再版(1914.4) 金港堂との合弁解消を記念して
以後、2集(1915 図8)、第3集(1916-24 ここから表紙は絵図。図9)、第4集(1921-24 図10)と続く
注：付建舟は、この初集本を「四集系列」と称する。初集作品の差し替えのみをいう。改名、移動に触れない。

表2：「説部叢書」の改組

	元版	初集	
	第一集		
佳人奇遇	第一編	第1編	天際落花 戊申五月(1908) / 1914.4再版 差し替え
経国美談	第二編	第2編	劇場奇案 戊申六月(1908) / 1914.4再版 差し替え
補訳華生包探案	第四編	第4編	華生包探案 丙午四月(1906) / 1914.4再版 改名
	第四集		
寒桃記	第一編*	第31編	*元版初版は集編番号を で塗りつぶす
魯濱孫飄流記	第三編	第33編	
		第34編	魯濱孫飄流続記(丙午(1906)) / 1913.10 / 1914.4再版 移動
洪罕女郎伝	第四編	第35編	
白巾人	第五編	第36編	
澳州歴険記	第六編	第37編	
秘密電光艇	第七編	第38編	
蛮荒誌異	第八編	第39編	
穿中花	第九編	第40編	
寒牡丹	第十編	第41編	
	第五集		
香囊記	第一編	第42編	
三字獄	第二編	第43編	
魯濱孫飄流続記	第三編		(前に移動)
紅柳娃	第四編	第44編	

念して初集100編を再版した。そう考えれば納得がいく。

本稿で問題にしているのは、元版と初集である。それ以後に出現する2集(100編)以降は、いま検討の対象にはしていない。ついでだから触れておくと、2集100編は1915年に刊行された(元版と区別するためにアラビア数字を使用する。図8)。表紙を絵図に変更した第3集100編は、1916年から1924年の間に出た(図9)。第4集は22編を1921年から送り出して1924年に終了した(図10)。合計322編である。

以上が日本での研究内容だ。それを理解してもらったうえで中国の研究状況を見てみよう。(つづく) 罍

【注】

- 1) 商務印書館は、自社年表の1903年に「説部叢書」の刊行開始をいうのみ。『商務印書館百年大事記』(北京・商務印書館1997.4)は、のちの初集本を写真に掲げて1903年刊行開始だと書く。ここに誤解の1例を見ることができる。『商務印書館110年大事記』(北京・商務印書館2007.5。6頁)も同様。版元による記述が正確ではない。読者がその違いに気づかないはずだ。
- 2) 中村忠行「商務版『説部叢書』について 書誌学的なアプローチ」『野草』第27号1981.4.20
- 3) 樽本「商務印書館版「説部叢書」の成立」『清末小説』第25号2002.12.1。『商務印書館研究論集』所収。関連する文章に次がある。「林訳小説

叢書」の作品数」『清末小説から』第89号2008.4.1

- 4) 図3 阿英編『晚清文学叢鈔』域外文学訳文巻 第1冊 北京・中華書局1961.9の口絵中央。「英国莎士比原著」とある。また、図4 吳福輝『挿図本中国現代文学発展史』(北京大学出版社2010.1。96頁)に見えるものと同じ。
- 5) つぎの論文を追加する。鬪文文「晚清小説出版商的廣告營銷」(『明清小説研究』2007年第4期(総第86期)2007発行月日不記。177頁)は、『時報』光緒三十四年七月廿七日(1908.8.23)の廣告を引用している。「説部叢書」の木箱入り一括販売の宣伝だ。これを見ても全十集の完結とその一括販売は1908年である。また、この廣告には「本館自癸卯年刊行説部叢書」と明記してある。「説部叢書」の刊行開始は1903(癸卯)年だと考えていいだろう。また、別の廣告では「本書十集訂一百三十本」(冊数が一定しない)と記す。分割支払いの方法を宣伝しているのもおもしろい(178頁)。少し疑問がある。前者の引用廣告文に「為書三百種、計一百八十八冊」と見える。「一百種」「一百二十八冊」の誤りではなからうか。
- 6) 陳大康「晚清《新聞報》与小説相關編年(1908-1911)」(『明清小説研究』2008年第3期(総第89期)2008発行月日不記。163頁)も128冊。
- 7) のちの廣告では、この作品を移動させていないものがある。たとえば、

2集第72編『海外拾遺』(戊申七月十六日(1908.8.12) / 1915.10.19再版)の広告だ。表紙裏に「説部叢書(初集)百種(こちらは133冊)の広告がある。10種ずつに分け第一編から第十編の数字を振る。初集は、十編に分けることを廃止している。1915年になっているのにもかかわらず、なぜ実際には存在しない分類をしているのか。それほど厳密には考えていない、ということだろうか。また『魯濱孫飄流続記』も前方に移動させていない。叢書の現実を反映した広告だとはいえないだろう。『説部叢書三集様本』(1920?)も初集部分に『魯濱孫飄流続記』を動かさずもとの位置に置いている。正確ではない広告に頼りすぎると、誤解が生じるおそれがある。

- 8) 問題となる改組の時期について、1908年以前だと推定したことがある。中村論文でも同じ。いくつかの作品広告にもとづいている。1906-10年にしぼったうえで1908年だと考えた。たとえば、差し替えられた『天際落花』(戊申五月(1908) / 1914.4再版)と『劇場奇案』(戊申六月(1908) / 1914.4再版)の刊行年を見る。初版らしい刊年を信用すれば、改組は1908年だ。

しかし、1908年説ではいくつかの不具合が生じる。

『天際落花』と『劇場奇案』が1908年に差し替えられたならば、元版2型タンポポ文様の版本があるはずだ。しかし、それは見つからない。

『魯濱孫飄流続記』は前の方に移

動し集編番号が変わった。それにもない元版2型の番号はひとつずつズれていく。たとえば、『洪罕女郎伝』第一集第四編は第五編となるはずだ。しかし、集編番号が変更された元版2型タンポポ文様本は、これも見つからない。

箱売りの中身は、改組後であれば『天際落花』と『劇場奇案』に入れ替わっているはず。しかし、これを確認することができない。

そもそも十集を完結した直後にあわただしく改組をする必要はあったのか。そう問われると答えることができない。

改組が、「初集」改称、表紙一新と同時に、つまり1913年に実施されたとしよう。元版十集が完結してのち約5年間はもとの作品構成 改組前のままに箱売りが行なわれた。それで上の疑問は解決する。しかし、ひとつだけ説明できない事柄が出てくる。『東方雑誌』第8巻第1号(1911.3.25)掲載の広告には、改組後の作品が見える。1911年当時、それらは実行されてはいないはずだ。改組を予告しているにしては、実施の2年前というのでは説明にならないだろう。ただし、商務印書館の広告に厳密性を求めるのもいかなものかと思わないでもない。実際の変更を反映させていない広告が複数あることについてはすでに説明した。

《醫學小説 鑽崇》の原作

渡辺浩司

1

《中華小説界》第二卷第十期(中華書局, 1915年10月1日)に、《醫學小説 鑽崇》なる短篇作品が掲載された。書名下には“農生”とあるだけで、創作のように見える。『清末民初小説目録 第4版』(樽本照雄編, 2011年3月31日)も創作と見なしている(Z1184)。しかし、この作品は実は翻訳なのである。残念ながら、原作は不明である。だが、日本語訳も存在しており、それとの一致から翻訳と判断できる。

その日本語訳とは、涙香小史(黒岩涙香)訳『金剛石の指環』である。同作は、1889~1890年に『都新聞』に掲載された数本の翻訳作品の一つで、後にそれらを併せて『涙香集』として扶桑堂より刊行された*1。本稿では、国立国会図書館の近代デジタルライブラリーで公開されている『涙香集』(1890年9月24?日)を使用した*2。

日本語訳者の黒岩涙香は、本名・黒岩周六、出身は現在の高知県、1862年生、1920年没、新聞記者から、後には新聞を

主宰するまでになった。その新聞に連載した海外小説の翻訳でも評判だった。

中国語訳者の“農生”は未詳。前掲『清末民初小説目録 第4版』に拠ると、《德国軍事偵探談(偵探小説)》を訳した葉農生なる名前が見えるが、その人物についても未詳であり、同一人物かどうかは不明である。

2

先に世に出ている日本語訳『金剛石の指環』に基づき、あらすじを述べる。

第一回

イギリスのある新婚夫婦がパリに新婚旅行に出かけた。ちょうど王宮放出品のオークションをやっていた。2人は出品される宝石等を見学した。夫は金持ちという訳ではないが、この機会なので妻の気に入る物があれば購入しようと考えた。そこに、昔、イギリスのインド太守がフランス王室に売ったという、大きなダイヤモンドを1つと小さなのを7つちりばめた王冠があった。妻の目が留まり、またその来歴もあったので、オークションに参加した。3日後、7万7千円で落札できた。夫は早速、王冠からダイヤを2つはずし、それを揃いの指環にし、片方を妻に贈った。帰国し、約3か月後、妻の指環をはめた薬指が腫れ、痛み始めた。妻は指環が命よりも大事と言ったが、次の日には痛みがひどくなり、夫に指環を抜くよう頼んだ。しかし、指環は指に食い込んで抜けず、医者を呼んだが、腫れは退かず、指環はそのままだった。2日後、痛みは全身に広がり、医者はリューマチと診断し、

治療を試みるも効果は無かった。他にも指環を抜く方法を試したが、抜けなかった。医者是指環のせいではないと言ったが、世間では指環の祟りと噂されていた。妻が痛がらずに眠ったので、夫が部屋を離れ、用事を済ませていると、妹がやって来て、妻の死を伝えた。

第二回

夫は駆けつけたが、身体は冷たく、脈も息も無かった。医者も死亡と認めたが、夫は、妻はカタレブシーで、一時的に生命活動が止まっていると言った。医者は否定したが、そう思うなら2~3日置いておくよう言った。夫は3日間そのままにしていたが、妻は生き返らなかった。葬儀を行なうことにし、夫は一切を親類に任せた。妹が、妻の指環が抜けないと言ってきたので、夫はそのままにしておくよう言った。墓地に行き、棺を埋葬した。夫は塞ぎ込んでいたが、その翌日の夜10時、気晴らしに庭に出ようとする、ガラス戸の外に妻が立っていた。夫はすぐに戸を開け、妻を確認するも、その身体は血まみれだった。妻の話では、指に痛みを覚えて生き返ったとのことで、その時、棺は外にあり、蓋も開いていた、とのことだった。血については、妻の薬指が根元から切断されており、そこからの血だった。妻によると、泥棒が指環欲しさに棺を掘り出し、薬指を切ったらしく、泥棒は妻が生き返るのを見て、逃走したとのことだった。その後、医者の話では、カタレブシーで生命活動を停止した者は、身体の一部を切って血を流すと生き返ることもあるということだった。指環は盗

られたけれど、指環のおかげで生き返ったのである。妻はゴム製の義指を使い、夫以外にはそれを知られていない。

物語は、夫の一人称で語られている。指の切断が恐ろしいが、妻の奇跡の生還というハッピーエンドで、まあ気軽に読める短篇である。当時のカタレブシーは現在とは異なるようである。現在のカタレブシーは、多くが精神的な要因に拠るもので、症状は確かに身体が動かなくなるのだが、息までは止まらない。当然、身体の一部を切るという物騒な治療は行なわれない。

3

中国語訳について述べる。短篇ではあるが、日本語訳との相違が多いように思う。以下に、主な相違点を挙げる。中国語訳は中訳、日本語訳は日訳、と略称する。

- 1.日訳は2回に分かれているが、中訳は分かれていない。これは、日訳が連載の都合から分けたもので、原作は中訳と同じく分かれていないと思う。
- 2.冒頭で物の祟りを述べた後、中訳は新婚旅行の説明を加えるが、日訳は無い。
- 3.王冠の落札額が、日訳は7万7千円(大玉7万、小玉1個1千)、中訳は2万4千元(大玉1万、小玉1個2千)、となっている。
- 4.医者に見せる場面が3度あり、日訳は、初めて痛みを訴えた翌日とその2日後、そして死亡後で、何科かは不明。中訳は、初めて痛みを訴えた6~7日後に、まず外科医、次に内科医を呼ぶ(日に2回)、そし

て死亡後に内科医を呼ぶ。また、日訳は、3回目は下僕をやって医者を呼ぶが、1, 2回目は不明。中訳は、1, 2回目は電話で呼び、3回目は不明。

5.妻の死を夫に知らせるのが、日訳は夫の妹、中訳は侍女、となっている。

6.埋葬までに、日訳は、夫がカタレプシーを主張し、妻を納棺せずに3日間寝かせたままにしており、その後、葬儀は親類に任せている。中訳は、夫は具体的な病気には触れず、すぐに友人2人に任せて葬儀を行ない、3日後に埋葬している。

7.妻が戻って来るのは、日訳は埋葬の翌日、中訳は埋葬の翌々日、となっている。

8.夫が戻った妻の四本指を見て、日訳は何もしないが、中訳は急いでタオルを取ってきて、それで包帯する。

9.最後の医者の説明で、日訳は、夫が主張していたカタレプシーが再登場する。中訳は、ここで初めて“達拉布昔”(カタレプシー)が現れる。

10.最後に、日訳は、指環は泥棒に盗られ、妻が義指をしていることだけを述べる。中訳は、その義指にそのまま指環をはめている。

次に、原作未見ではあるが、日訳、中訳ともに加筆がある。以下に示す。日訳はオークション入札の場面である。

余は東洋にありと聞くキヨミツの舞臺より飛ぶ氣になり、早速糶賣所の事務員に掛け合ひ、其内意を聞きて七万七千圓の札を入れしに……(3頁)*³

原作にもある風を装っているが、「キヨミツ」云々が日本以外の読者にわかる訳がない。日本語訳者の加筆だと断言する。中訳は妻の死の確認直後の場面である。

當時那種悲痛慘切光景。至今回想起來。漫說我這不會做文章的。描寫不出。便是中國古代。那些文人學士裡頭。最有名的。最出色的。唐元稹三首悼亡詩。楚宋玉一篇招魂賦。怕也描寫不來萬分之一呢。(4頁,句点是原文のまま,以下同)

(その時の痛切な悲しみの様子は、今、思い出しても、私には文字で描写できないし、たとえ中国古代のかの文人学士の中で最も有名で最も優秀な、唐の元稹の悼亡詩三首でも、楚の宋玉の招魂賦一篇でも、恐らくはその悲しみの一万分の一ほども描写できていないだろう。)

これが中国語訳者の加筆であることを疑う人は無かろう。

原文が無いので、比較する価値が下がるが、両訳の結末を挙げておく。日訳の少し砕けた調子を感じられると思う。

此後醫者の説を聞くにカタレプシーにて絶息したる者、身体の一部を切りて血を出す時は正氣に復る事ありと。左すれば余が妻に高價なる金剛石の指輪を環め居たるが爲めに指を切られ、指を切られしが爲めに命を拾ひしなり。斯く思へば取られし指

環も惜からず、切られし指も惜からず、其曲者も憎くからず、可愛きは唯四本指の余が妻のみ。(妻)「貴方此事は新聞に出しても、私しの名前ばかりは隠して下さいナ」(余)「ヨシヨシ」讀者よ、余が妻の名を問ふ勿れ。妻は今ゴム製の義指を繼ぎ、余の外には誰も其四本指なる事を知る者なし。(13頁)

隨後隔了些時。才聽著某醫生談起。有種奇怪病症。叫做達拉布昔。得下這個病症。先打從身體一部分。發紅發腫。經過一個禮拜。便要窒息。這病的唯一救治法。只有切去身體一部分。放出惡血。方能回復元氣。窒息後再過一禮拜。便沒救了。這樣看將起來。我妻正是因病窒息。並非鑽石作怪祟人。你不見我妻現在仍帶著一個橡皮指頭。仍舊套著一個鑽石指環呢。(7頁)

(その後しばらくして、ある医者が出たのだが、達拉布昔なる名の奇病があるそうだ。この病気にかかると、まず身体の一部が赤くなり腫れて、1週間たつと、息が止まってしまうという。この病気の唯一の治療法は、身体の一部を切って悪い血を外に出すことで、そうすれば健康を回復できる。息が止まって、更に1週間過ぎてしまうと、もう助からないのである。そう考えると、妻は正にこの病気のせいで息が止まったのであって、指環が祟りをなしたのではなかった。妻は今、ゴム製の指をつけ

て、それにそのままダイヤモンドの指環を一つはめています、お分かりにならないでしょうか。)

4

原作は不明であるものの、両訳で書かれているので、原作にも指環の祟りという記述があったのだろう。ただ、そう言うのであれば、やはりその指環の宝石が祟りになった原因に説き及んでいなければ小説としては不足である。故に、原作は小説ではなく、ゴシップ記事で、それを黒岩涙香が小説風に増補して翻訳・紹介したのかも知れない。中国語訳はその日本語訳を改めながら、転訳したものだと思う。

『黒岩涙香探偵小説選』の小森健太郎「解題」では、死んだとされた者が埋葬後に生き返るといった話を扱った作品として、「メアリ・コレリMarie Corelli(英、一八五五～一九二四)の『ヴェンデッタ』Vendetta!; or, The Story of One Forgotten (一八六六)……ポオの「早すぎた埋葬」The Premature Burial、デュ=ボアゴベの未訳作品Les gredins〔大復讐〕(一八七四)など」(259頁)を挙げている。

ここにもう一作、本作と全く同じく、死んだとされた妻が、埋葬後、指環を狙った泥棒に掘り返され、指を切断され、そのために意識を回復し、家に戻り、そのまま暮らした、という話を取り入れた作品があったので、付け加えておく。

『死人の子』(アンリ・ポルドオ作、池只一訳、『探偵趣味』第三年第一号(第15輯,春陽堂,1927年1月1日)掲載)という短篇である。

アンリ・ボルドオは、Henry Bordeaux、フランスの作家で、1870年生、1963年没。日本語訳を見ただけで、残念ながら、原題や発表形態は不明である。内容は、「死人の子」とあだ名されるセルキニイという男爵家の子息がおり、そのあだ名の由来を土地の老婆が「私」に話してくれる、という物語である。その由来が、セルキニイの母に上記のような事があり、生き返った1年後にセルキニイを出産したから、というものである。Bordeauxの生年から見て、『金剛石の指環』、『鑽崇』の原作よりは、『死人の子』の原作の方が後出であろう。 罫

* 《醫學小説 鑽崇》の複写入手に、北海道大学の長井裕子先生のお世話になりました。末尾ながら記して御礼申し上げます。

【注】

- 1) 小森健太郎「解題」(『黒岩涙香探偵小説選』(論創ミステリ叢書18),論創社,2006年8月10日)に拠る(259頁)。
- 2) 奥付の日付は手書きのようであった。そのためか、本によって異なるようで、前掲小森健太郎「解題」では、「七月」になっている(259頁)。
- 3) 原文は句読点等は無い。読みにくいので、前掲『黒岩涙香探偵小説選』に収められた本作により、句読点等を付す、また、繰り返しを表す記号は使わず、文字を繰り返した。以下同。

【参考文献】

伊藤秀雄『明治の探偵小説』晶文社,1986年10月 双葉社版(2002年2月20日)を使用

小森健太郎「解題」 - 『黒岩涙香探偵小説選』(論創ミステリ叢書18),論創社,2006年8月10日

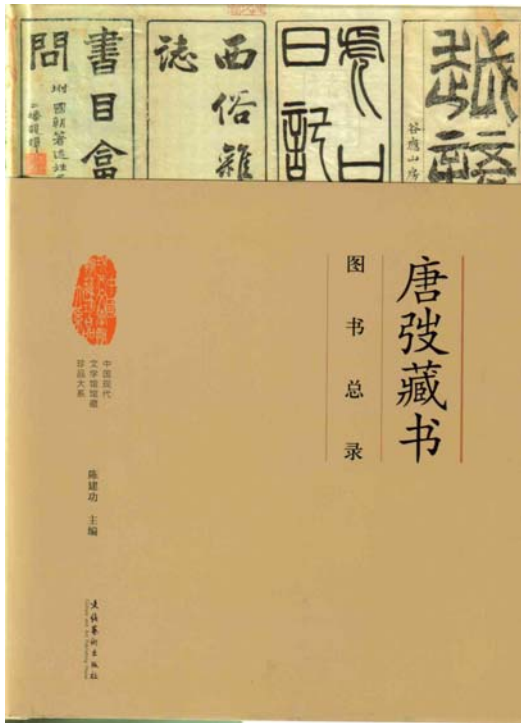
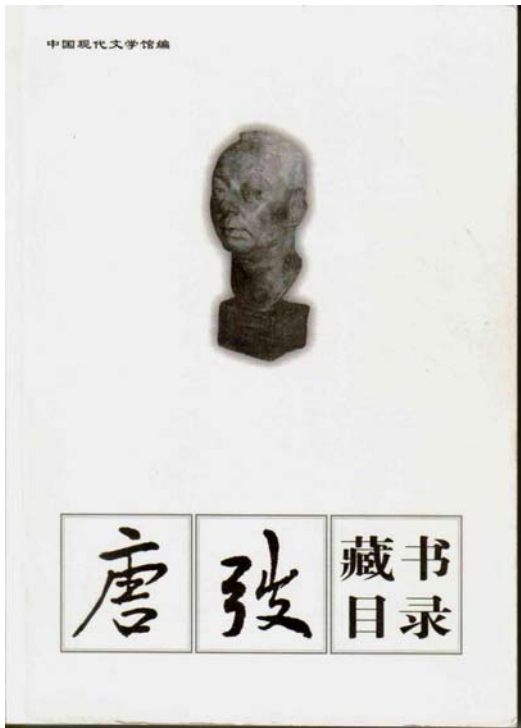
下中直人編集発行『世界大百科事典5』改訂新版,平凡社,2007年9月1日

『世界文学大事典』編集委員会編『集英社 世界文学大事典4』集英社,1997年7月25日

Stanley J.Kunitz and Howard Haycraft編『Twentieth Century Authors A Biographical Dictionary of Modern Literature』Third Printing,The H.W. Wilson Company,1950年7月

『清末民初小説目録』第4版問答(下)

答 唐弢の蔵書について2種類の目録が作成されました。ひとつは、中国現代文学館編『唐弢蔵書目録』(刊年不記[2003]内部交流資料)*³です。もうひとつは、陳建功主編『唐弢蔵書・函書総録』(北京・文化藝術出版社2010.10 中国現代文学館館蔵珍品大系)*⁴といひます。もともとなった書籍は、当然同じものです。しかし、



ふたつの目録を見比べると、著者名、とくに外国人名の漢字表記が異なる、発行年が違う、前

者は「説部叢書」「林訳小説叢書」という名称を採録しないが後者は採取する、などです。多すぎていちいちあげることはできません。同一書籍を手元において、どうしてこうも記述が異なるのか、といぶかります。

問 はあはあ。

答 実物を手にすることの重要性はいうまでもないでしょう。しかし、実物を見ていても誤る。上の唐目録がそういう例です。また、漢字そのものが問題ということもある。

問 普通に使わない漢字も多くあるのでしょうか。

答 現在の電腦環境において、漢字問題はほぼ解決しています。しかし、不都合なことも残っている。「(新訳 滑稽小説) 解頤語」は、『月月小説』第1年第7号と第9号に掲載されました。第9号の著者名は、新广とあり周桂笙の筆名です。广も厂も庵のことです。こちらはかまいません。むつかしいのは第7号のほうです。写真のように書かれています。

「𠂇」を拡大する 𠂇

「𠂇广」の「𠂇」は、なんでしょう。読むことができません。よく見ると作字したらしい。「采」で代用する目録もあります。采广とか采厂とか。正確ではないにしても、それでやりすごすことができる。そういう

作品だという判断でしょうか。杜慧敏『晚清主要小説期刊訳作研究(1901-1911)』(2007)



では、「(采)厂」(367頁)とカッコをつけました。注意をうながしている。原文どおりには印刷できないので保留したという意味でしょう。やむを得ない処置ですね。

問 えらく細かいことです。普通にはとぼして気がつかない。

答 また、印刷事故によって生じた誤解もあります。

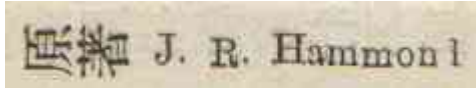
問 なにでしょう。

答 劉目録の間違いを指摘した王鑫(略号は[指瑕])から1例を紹介します。

「(短篇小説)劈棺」(『小説林』第11期)です。劉目録71頁は雑誌を「第10期」と誤っている。王がそう指摘するのはよろしい。たしかに劉目録の誤記にちがひありません。問題は、その原作者の名前です。[指瑕169]は、原文はHammonlであると指摘しました。



王は実物を見ているから劉目録が間違えたと確信したのでしょう。参考までにその箇所を拡大しましたからご覧ください。



どうですか。実物を手に取れば、Hammondは「d」の活字が不鮮明で、Hammonlに見えるだけです。英語活字の「l」であれば前の「n」に密着します。実物を見ても、間違うときは間違う*5。

問 細かすぎてめまいがしそうです。雑誌が

すぐに目の前にでてくるところを見ると、所有するのが影印本だからですか。

答 実物と影印本は違います。私は、『小説林』原本を見て目録を作成しました。国立国会図書館にかよった昔(1974)のことです。マイクロフィルムを紙焼きにしています。また、香港で出版された影印本も購入しました。そのほかに原本の一部を書店から買っています。同じ資料が重複するのはしかたがありませんね。ここに掲げた写真はその実物のほうです。

劉目録の単行本小説

問 なるほど。活字本の目録といってもそう簡単ではない、と。さて、劉目録が単行本に関して樽目録から「引き写した」という根拠はなんでしょう。

答 簡単なことです。樽目録だけにある記述が、劉目録にも存在している。樽目録の注記には、東洋文庫、芥川文庫、拓殖大学、愛知大学図書館などを記載した箇所があります。それらは日本の図書館、大学です。それと同じものが、なぜ劉目録にも見えるのでしょうか。日本の関係機関が劉目録に出てくること自体が奇妙です。

問 それは書評で読みました。「説部叢書」の編成に関わる数字の区別についても説明がない、とか。

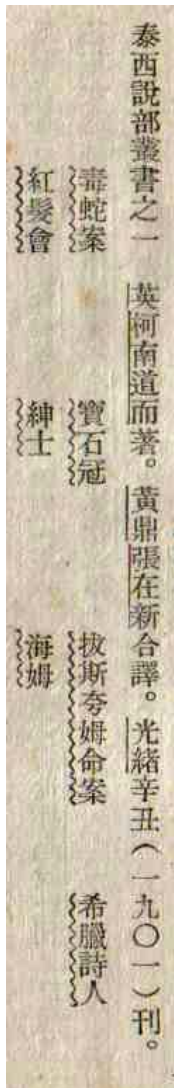
答 こういうのはどうでしょう。

問 まだあるのですか。ここは変だ、という箇所ですよ。

答 一般的な間違いではなく、日本語がからむ独特のものです。

問 日本語といいましたね。目録第3版は、中国の齊魯書社が刊行しました。全文が漢語に翻訳されたのではないのですか。

答 実物を見ればすぐ理解できます。目録本文には日本語を使って説明している箇所があるのです。版下を樽本が作成し、齊魯書社はそれを印刷製本しただけです。もっとも、序、使用法、



H0081*

海姆^ア

(英) 柯南道而著 黄鼎、張在新合訳

『泰西説部叢書之一』(啓明社) 光緒辛丑(1901)

ARTHUR CONAN DOYLE "THE ADVENTURE OF THE REIGATE SQUIRE /THE REIGATE PUZZLE" 1893.6. 正しい作品名は紳士克你海姆[大典35] は阿英の誤りを踏襲する [編年88]は阿英の誤りを踏襲する[劉晩252]阿英の誤りを踏襲する

第3版を引き継いだ第4版の該当箇所

あとがき、収録した日本語論文などは賀偉氏が漢訳しています(ついでにいうと、賀偉訳とあるためか、目録第3版は中国人研究者が大幅に増補したという説明を読んだことがあります。間違った説明であることはいうまでもありません)。

問 日本語の説明文が劉永文には理解できなかった。それでおかしいことになった、と考えてよろしいでしょうか。

答 そんなところですね。ドイルの漢訳ホームズ物語です。書名が『泰西説部叢書之一』という翻訳書があります。

「叢書之二」も出たのか、と

質問がでそうですが、そちらはないらしい。阿英目録では140頁に掲載されていますからご覧ください。収録作品名に誤りがあります。本来はひとつの作品であるはずのものが、「紳士」と「海姆」に分けられたのです。明らかに阿英の間違い。以後、多くの研究、目録がその誤りを踏襲しています。

問 なぜ阿英の記述間違いだとわかるのですか。

答 私は上海図書館で該書を観覧したことがあるからです。複写は許可されませんでした。見ただけですから注釈欄には[樽本]と記しません。実物を見た、と書いたほうがよかったですか。

問 作品ふたつではない、と。では、それはなにですか。

答 実は、もとがひとつで「紳士克你海姆」といいます。引き裂かれた翻訳名というわけ。原作は“THE ADVENTURE OF THE REIGATE SQUIRE /THE REIGATE PUZZLE ライゲイトの地主”です。第3版では、「h0057*海姆」221頁と「s0479*紳士」628頁に分けて掲載しました。ただし、それぞれに「正しい作品名は紳士克你海姆」だと注記しています。また、「s0509*、s0510*紳士克你海姆」630頁も別に掲げたのはいうまでもありません。こちらにも「作品名を紳士、あるいは海姆とするのは誤り」と説明しているのをご自分で確かめてください。

問 劉目録には、それらの注釈は見あたりません。その部分は削除したと考えていいですか。それが「不完全な引き写し」だ、と。

答 彼はたぶん日本語を理解しないのでしょうか。わからないから事実関係を無視したと思われる。 「紳士克你海姆」は、樽目録にのみ掲げている作品名です。他の目録では見ることのできない作品を劉目録は収録している。原作を指摘した箇所は無視して残りを引き写したのです。おかしい箇所はそれだけで終わりません。

問 以上でもう十分な気もしますが.....

答 そうおっしゃらずに、お聞きください。上の「紳士」と「紳士克你海姆」の配置場所が問題です。冒頭が同じ「紳士」ですからふたつは続けて、あるいはごく近くにまとめて配列され

るはずですが。作品は、現代漢語音のabc順で並べていますから。ところが、私の不注意によって「紳士克你海姆」は、1頁も後方に紛れ込みました。つまり、配列について樽目録は誤ったのです。ところが、劉目録もふたつを離して配置するという同じ間違いをおかしています。

問 単行本の配列については、樽目録を参照した(説明2頁)とあります。劉永文は誤りに気づけなかったのでしょうか。中国人が現代漢語のabcを間違えるのは不思議です。

答 なにも誤った配列まで引用複写することはないでしょう。機械的に写しただけ。検討する余裕がなかったのかもしれない。

阿英説をめぐって

問 劉目録は、「光華文史文献研究叢書」の1冊です。叢書の編集者は気づけなかったのですかね。

答 誤解しないでください。私は批判しているわけではありません。単に「なんでそんなことするかなあ」と思っているだけ。私は失望したと同時に疑問を持ちました。彼の「後記」には、清末新聞小説研究を主題にして修士論文を執筆し、博士号を取得した、と書いてあります。彼が作成したのは、新聞を中心とした『清末民初報刊小説目録』(前言6頁、また『近代報刊小説目録』後記852頁、さらに称して『近代報刊小説目録初編』後記853頁)だそうです(2011年現在、民初部分は未公開)。

問 題名を見るかぎり、新聞雑誌小説が中心です。

答 なぜそれではいけなかったのか。新聞雑誌小説の目録でいいではないですか。阿英目録の不足を十分に補うことができます。問題はどうしてもそこにめぐっていくのです。

問 『晚清小説目録』という書名では新聞雑誌小説のみならず単行本を含みますからね。収集範囲を拡大した、というわけでしょうか。

答 考えれば、劉永文は用意した『清末民初報

刊小説目録』の民初部分を捨てた。

問 捨てたわけではないでしょう。説明2頁に『民初小説目録』の出版を予告していますから。刊行準備をしているのですよ。

答 そうそう。ご存じのように樽目録は、典拠資料を縮めて記載しています。劉目録には略号[劉晩]を当てました。その理由は、劉の『民初小説目録』が刊行されたときにはその略号を[劉民]にする予定だからです。とりあえず、目の前にある清末部分について述べます。劉永文は、『晚清小説目録』という書名にあわせて、単行本小説部分をつけ足した。その時、樽目録を引き写した、あるいは引用せざるをえなかった、と思われます。もとの新聞雑誌小説目録でよかったのです。なぜ目録の規模を単行本小説を含める方向で無理矢理拡張したのか。私が考える理由はひとつだけ。類似の孟目録がすでに刊行されています。それを避けるためではないのか。これが私の感想でした。それ以外に説明できる理由はあるのでしょうか。

問 私に聞かれてもわかりません。本人でなければ答えられないでしょう。

答 劉永文の説明には、引っかかる箇所があります。

問 どこでしょう。「前言」部分ですか。樽目録を批判した箇所でも。

答 阿英の主張にかかわる。すなわち、清末時期において「翻訳は創作よりも多い」です。大勢の研究者によって引用されつづけてきました。その阿英の断定が誤りであることを私は指摘したことがあります(1997)。私がそれまでに編集した目録によって実際に数えてみたら「創作のほうが翻訳よりも多い」となりました。

問 劉目録が出版されるはるか以前ですね。劉永文は、多数の新聞小説を収録して目録を編集した。もしかすると、新聞小説を含めて数えなおせばやはり阿英のいう通りだった、ということですか。逆転を再逆転させた、と。阿英にもどってしまうのでしょうか。

答 そうはなりません。その部分を劉の文章から紹介しましょう。「条件の制約があったために「新聞」に掲載された多くの小説および附録で送られた小説は、まだ全部が合計されてはいない。特に翻訳小説に関する問題は、さらに一歩進めた調査研究が必要とされる。われわれは清末民初小説を研究するにあたって各種の結論を急いではならないのだ [由於条件的限制，衆多“日報”当中登載的小説和隨紙附送的小説，還沒有被全部統計出來，特別是關於翻訳小説的問題，還需要做進一步的調查研究，我們在研究清末民初的小説時還不能急於得出各種結論] 」(前言3頁)

問 結論を急ぐな。そういうこともあるか思います。しかし、新聞の実物を閲覧したとあれだけ強調した劉永文にしては、新聞小説はまだ全部ではない、とえらく控えめなことです。

答 それはそうですが、どこか引っかかる。樽本の「創作のほうが翻訳よりも多い」は、阿英の「翻訳は創作よりも多い」に対して主張したものです。樽本が結論を急いでいるのであれば、阿英はもっと急いだことにならざるをえません。樽本説を批判しているつもりで、実は阿英を批判していることを劉自身は理解していない。

問 劉は、彼の意識とは別に結果として阿英を批判した、と。

答 私が提出した「創作のほうが翻訳よりも多い」は、では間違いなのか。それについて劉永文はなにも書いていない。自分の考えを提出していない。歯切れが悪いです。単に結論を急ぐな、とはどう見ても中途半端に思えます。樽本説が誤っていればそれを書かないはずがない。

問 劉目録は、新聞小説を充実させています。しかも、阿英目録と同じ清末が対象です。阿英説を検討するには適任者だといえるでしょう。また、樽本の指摘をわざわざとりあげただから劉永文はなんらかの見解を示してもいいのではないか、そういうことですね。翻訳小説研究をさらに一歩進めろ、ともいっています。翻訳

小説に興味がありそうですが。

答 そこだけ見ると、翻訳小説研究を重視しているようにも思える。しかし、そういう人が樽目録の翻訳小説原作などの注釈をすべて削除しますかね。矛盾しています。

問 では、別の事情があるのですか。

答 阿英が問題にしたのは、創作と翻訳の割合です。阿英説があって樽本がそれを否定した。これが研究の時間的経過です。劉永文は新聞小説を中心に研究している。その新聞小説のなかに創作を装った翻訳があるのではないかと疑っているではありませんか。表面を見ただけでは、翻訳かどうかわからない。研究を一歩深めれば、隠れた翻訳がでてくるかもしれない。そこではじめてどちらが多かったのかわかる、と。

問 将来の研究に望みをたくすとは、劉永文も弱気です。なぜそのように遠回しな発言になるのでしょうか。

答 劉永文は、樽目録 [第3版] の981頁すべてを点検し北京地区の新聞小説を抽出するほど研究熱心な人です。私が推測するに、劉は自分の小説目録にもとづき独自に数えた。ところが樽本の立論をくつがえすことができなかった。それが理由で、思わせぶりを持って回った書き方になったと思うのです。考えすぎですかね。

問 そこも本人でなければ、なんととも……

答 単行本については、当てはずれの劉目録でした(新聞小説部分は別ですから誤解のないように)。くりかえしますが、批判しているわけではありません。しいていえば、少し驚き落胆して残念に感じるだけです。

問 劉が樽目録を激しく批判したのは、単行本小説部分について引き写したという負い目を隠蔽するためだ。書評にそう書きましたね。考えに変化はありますか。

答 ありません。阿英説についても劉はあやふやな書き方しかできない。彼の空回りする対抗心を感じるだけです。

問 そこは、まあ、個人の受け止め方次第ですから。

答 劉目録を前にして私が理解したのは、自分が必要とする目録は、自分で編集するしかない。これが結論です。いつも同じことを言っている気がします。

問 第4版「本書の使い方」で「本目録は、あくまでも調査の補助に利用してほしい」と書いています。これはどういうことでしょうか。

答 ことばの通りです。清末民初小説研究は、作品そのものから出発するはず。作品に到達するには道具があったほうが便利でしょう。初出が新聞雑誌で、ある作品はのちに単行本になる。その流れを把握したい。つまり、変化の過程がひとめでわかる道具書なのです。

問 劉目録では、雑誌、新聞、単行本のみつつに分離させています。それでは作品の流れが見えない。そうなりますね。

答 研究の最先端を知る手がかりがあれば、さらによろしい。そこから注釈をほどこすという発想につながります。

問 フムフム。アノー、目録が道具であるならば、少しばかり間違っているとしてもそれほど重要ではない。そういう見方も成り立つのではないですか。

答 ミもフタもないおことば、ありがとうございます。私は、目録の利用者と同時に作成者です。作成者の視点で見ると、劉目録には気になるところがある。それを述べただけです。引き写したどうのこうのというのは余計でしたか。利用者が判断するばあいの材料を提供したとお考えください。

結局のところ私にしてみれば、増補改訂作業を日常的にくり返すだけ。孟目録にもとづいて不足の作品を補充しました。劉目録についても同じ作業をやったのはいうまでもありません。

問 すでに触れられています。劉目録の誤りを指摘する論文です。それについてはどうですか。

答 王鑫「《晚清小説目録》指瑕」(2010。注

参照)ですね。細部にわたる王の指摘をご覧ください。細かく点検をしています。ただ、不思議に思わないわけではない。王が検討の対象にしているのは、劉目録の新聞小説と雑誌小説のふたつだけなのです。彼はなぜ単行本小説を避けたのか。その理由はわかりません。

問 誤りをいうからには、新聞と雑誌では実物で確認しているのでしょうか。単行本についてはその条件が整っていなかったとか。

答 そういふふうに見えます。全面的な検討をするまでにはいたっていない。つまり、王は自分が現在研究している範囲内で劉目録を点検してみた、ということではないのでしょうか。

問 簡単にいえば、どうなりますか。中国においていままで清末民初小説目録が編纂刊行されていない、と聞きました。それが実状なのでしょうか。

答 そうです。単行本小説を含めて総合的な目録が中国で編纂されないのであれば、私が編集作業を継続するほかありません。第4版を編集刊行する理由のひとつです。

電字版の問題

問 CDという電字版で刊行する理由は、なにでしょう。

答 第3版が1千頁をこえていました。正確に言えば、本文981頁、索引89頁、ふたつを合計して1,070頁でした。本文は2段組にしましたからそれだけに圧縮できたのです。第4版を紙媒体で刊行することも選択肢のなかにはありません。一応は考慮したのです。しかし、長期間にわたる増補作業の結果、第3版に比べて作品数が大きくふくらんでいます。版下を作るにしても2段組で2千頁近くにはなるでしょう。これは現実的ではありません。場所ふさぎですし、なにしろ重い。しかも、縮小印刷しますから活字が小さくて見るのが困難です。それらの条件を考えあわせれば、残る突破口は電脳だけでした。

問 電腦といってもいろいろな方式があって、どれも閲覧できるわけではないでしょう。また、電腦特有の問題もあるはずで。たとえば漢字問題。特にさきほどの「文字化け」といわれる電腦機種に依存して発生する現象ですが。解決困難にみうけられます。

答 おっしゃるように電腦を利用するばあい、正と負の両面があります。

便利な点は、編著者にとって、ページ数を気にする必要がない。これはうれしい。利用者からいえば、活字の大きさを拡大縮小と自由に調整できます。これが電字版の特徴のひとつだといってもいいでしょう。しかも、目録全体について曖昧検索をすることが可能です。作品名の途中部分であっても検索できるのは魅力ではありませんか。印刷屋さんには悪いのですが、印刷費用も発生しない。CDに複写するのは簡単です。郵送料もそれにあわせて低くおさえることができる。これらは経済的に見てよい条件になります。

不便な点は、電腦を持っていなければ利用できない。動かすのに電気が不可欠だ。読みにくい、すなわち長時間の閲読性が低い。書き込みができない、などですか。

問 書き込みについてですが、新しい展開があります。アドビ・リーダーX(第10版)では「ノート注釈を追加」することが可能になりました。

答 なるほど、便利です。ただし、CDのまま利用する時は注釈の追加はできないようです。ハードディスクに複写して閲覧すれば追加記入もできました。

第3版でもあの分厚さですから持ち運ぶのには苦勞します。まあ、普段に持ち歩いて読むというものではありません。ならば、机上の電腦も同じことです。いまのところスイッチを入れて動きだすまで少し待たなくてはなりません。

問 将来的には携帯電腦に複写して簡単に利用できるようになる、と。その時は、即座に読め

る。卓上電腦も必要ではなくなる。いま話題になっている電字出版の1種ですか。文字化け問題はどうでしょうか。

文字化けについて

答 電腦化するにあたり頭を悩ませたのがこの漢字問題です。紙媒体に印刷するならば、それほどむつかしくはありません。最後には、原始的な方法があります。表示できない漢字は、別に印刷したものを貼り込めばよろしい。ところが、個別の電腦に直接表示させるとなると、各自が保持する文字種といえますか字体といえますか、それらが異なる。どうすれば版下に近い状態で表示することができるか、難問です。解決の糸口をみつけることができなくて長い時間が経過しました。ようやくたどりついたひとつの解決策がPDFファイルです。

問 最近よく聞きます。どんな電腦環境でも読めるとか。

答 現在、ネット上に公開している『清末小説から』と『清末小説』は、ふたつともこのPDFという形です。それ以前は、表示できない漢字には俗にいうゲタ(■)を履かせておりました。読むというにはほど遠い。紙媒体の補助的な存在でしかありません。

問 文字化けの例をあげてください。

答 「雁叟(また贗叟)」という名前をみかけます。本来の表記は「夔夔」です。『月月小説』『民呼日報』『民吁日報』などに出ていますし、また『神州日報』にもあるらしい。談善吾の筆名です*6。中国でももとの漢字は表示できないようです。勝手に読み替えて先ほどの「雁叟(また贗叟)」を使用しています。「夔」は「叟」ですから許容範囲内です。しかし、「雁(贗)」は同音というだけ。代替文字にはなりません。苦肉の策でしょう。劉目録はどうか。彼は「夔^マ夔」と書いています。「夔」とするのはなぜか知りません。

問 見なれない漢字です。

答 もうひとつ、こういう例もあります。『恩仇誤』(『時事新報』1911)です。劉目録は題名を『恩仇記』と誤り、著者を誦蘄と表記しています(208頁)。著者名が文字化けです。王は『恩仇誤』に訂正し、さらに「作者：夔^{スズ}夔」としました([指瑕173])。ここもなぜか「夔」です(つぎを追加。陳玉堂編著『中国近現代人物名号大辞典(全編増訂本)』(2005)は正しく「夔夔」と表示しています(1083頁))。

問 それらの漢字を表示するのがPDFですか。

答 PDF作成に私が使用しているのはアクロバットというソフトです。目録の試作版を別の電脳に読み込ませたところ、一部に表示しない漢字があることに気がつきました。そのことをふまえて第4版には文字化け一覧表を掲載したのです。

問 一覧表をつけただけでは、本文の文字化けは解決しないでしょう。

答 アクロバットをあらためてよく見ると、PDFに出力するとき品質に差をつけることができる。表示する質が高いのから低いのであるのですね。いいかえれば、紙媒体に印刷できる高品質から、ネットで閲覧するだけの低品質まで。今までそれを知らずに使用していました。初期設定は低品質になっています。研究会ウェブサイトに掲げていたのは、低品質のものでした。これでは表示できない漢字が出てくるはずですが。試行錯誤の結果、第4版では特別な漢字も表示する高品質タイプで出力しています。

問 現在のところそれで文字化け問題は解決しているわけですか。

答 私は、PDFを作成するソフトを十分に使いこなしているというわけではありません。普段は見ることのできない難しい漢字をとりあえず表示して利用できるかな、と。その段階で第4版を送り出したということです。

問 CD1枚におさまっていますが、もし紙媒体で印刷したらどれくらいの規模になりますか。

答 組版によりますからあまり意味のある質問

ともいえません。しいていえば、A5判換算で本文3,197頁、索引208頁、合計3,405頁ですね。本文を検索しているとき、「*/3197」(統合版では「*/3405」)と表示していれば、それが元の頁数になります。

複写、配布自由のこと

問 紙媒体での印刷はやはり現実的ではなさそうですね。最初にもどります。あいさつ文の最後部分です。

「なお、本目録の複写、配布は自由です。必要とする研究者にお渡しください。ノお役に立つことができればさいわいです」

複写、配布を自由にした意味はなんでしょうか。CDカバーには「非賣品」という紙がはられていました。

清末民初小説目録 第4版

2011 非賣品

答 目録第3版、すなわち『新編増補清末民初小説目録』の複写が中国のネット上に掲げられているらしいです。お話ししましたか。

問 聞いたような気もしますが。

答 中国の齊魯書社から刊行したあの目録。約1千頁です。それを1頁ずつスキャナで読みとり、まとめてネットに掲載しているらしい。中国人がネットに書き込んでいるのを偶然読んで知りました。無料で入手できてうれしい、などという感想が添えてあったような記憶があります。複写しただけのものでは検索ができません。その点は、紙媒体でも同じです。どうみても手間のかかることをやっている。実物を購入したほうがどれほど簡単かと思いますが。

問 俗にいう海賊版ではありませんか。

答 そうでしょう。第3版は印刷部数が少なかったですから。といいながらネットで検索すると、いまでも日本中国の専門書店では扱っているようです。入手できるかどうかは不明ですが。ほとんど10年前の少数刊行物です。中国人がネットを経由して複写を利用するのは、品不足か、それとも単なる費用節約のためですかね。よくわかりません。

問 それは置いておいて、無料で配布する意味です。

答 清末小説研究会が利益を追求する組織であれば、とっくの昔に破産しています。小説研究と経済的利益は、基本的に両立しません。非賣品とは、ネット上で研究会のウェブサイトを開設し、『清末小説』『清末小説から』を無料公開しているのと同じ意味です。今回は、それがCDになった。電腦界では皆が知って使っている無料ソフトと同じ、ということですね。便利だからほかの人にも使ってもらいたい。それだけです。

問 今後はどうなるのでしょうか。

答 目録の第4版を出して終了、というわけではありません。これからも増補改訂作業を続けます。時期をみて第5版を出すこともありうる。そう考えてくださってけっこうです。范伯群先生よりいただいた『周瘦鵑文集』全4冊(2011)にもとづき、それぞれの作品に情報を追加しました。また、『唐弢蔵書・図書総録』を使っての本文検討は、すでに終了しています。やるべき作業はいくらでもある、ということです。☐
(樽本照雄)

【注】

3) 現代文学館に収められた唐弢の旧蔵書。平装本10,595件、線装本418件、雑誌1,452件の目録。清末民初小説が含まれており貴重。参考：于潤琦編著『唐弢蔵書』北京出版社2005.1、舒乙『走進中国現代文学

館』上海書店出版社2004.4

- 4) 現代文学館に所蔵された唐弢旧蔵書の図書総録(新聞、雑誌を除く)。1899年以前をひとまとめにし、あとは10年ごとに区切る。1990年代は1997年まで。出版時期の不明のものも巻末に集める。前半に多数の単行本表紙をカラーでかかげる。
- 5) 清末小説研究会ウェブサイトにて2011.2.4付で掲載。なお、杜慧敏『晚清主要小説期刊訳作研究(1901-1911)』(上海世紀出版集団、上海書店出版社2007.12)406頁も「Hammonl」と誤る。ただし、478頁では正しくHammondと表記する。
- 6) 樽本「夔叟という人物 吳趼人の筆名をめぐって」『清末小説』第12号1989。のち『清末小説論集』所収

『清末小説』第34号

2011.12.1

翻訳家奚若	樽本照雄
Sam Briggs の中国語訳	渡辺浩司
曾孟樸の初期翻訳(下)	樽本照雄
書家としての吳禱・補遺2	沢本香子
天涯处处有芳草 钱塘海陽是両家	郭 長海
从《鉄雲詩存》看劉鶚人生“三游”及詩歌“太谷化”	伏 涛
貴重な出版史料のひとつ	樽本照雄
『繡像小説』主編を示す商務印書館の新聞広告	
李伯元遺稿(13・完)	李錫奇『南亭回憶録』より

傅兰雅“时新小说”征文获奖作品序文钞
(上)

刘 德 隆

上海古籍出版社2011年1月出版之《时新小说》，系影印1895年由傅兰雅发起的《求著时新小说启》的应征小说。其“征文启”全文如下：

窃以感动人心，变易风俗，莫如小说。推行广速，传之不久，辄能家喻户晓，气息不难为之一变。今中华积弊最重大者计有三端：一鸦片，一时文，一缠足。若不设法更改，终非富强之兆。兹欲请中华人士愿本国典盛者，撰著新趣小说，合显此三事之大害，并祛各弊之妙法，立案演说，结构成篇，贯传为部。使人阅之，心为感动，力为割除。辞句以浅明为要，语意以趣雅为宗。虽妇人幼子，皆能得而明之。述事物取近今易有，切莫抄袭旧套。立意毋尚希奇古怪，免使骇目惊心。限七月底满期收齐，细心评取。首名酬洋五十元，次名三十元，三名二十元，四名十六元，五名十四元，六名十二元，七名八元。果有佳作，足劝人心，亦当印行问世。并拟

请其常撰同类之书，以为恒业。凡撰成者，包好弥封，外填名姓，送至上海三马路格致书室收入，发给收条。出案发洋，亦在斯处。

英国儒士傅兰雅谨启

本次征文以用小说形式，阐述“鸦片，时文，缠足”之害为共同主题。自1895年5月至1898年9月共征得小说162部。“作品中包括了由学生们写的短短的几页文章到乡村塾师写的长达数卷的感人故事”“所征稿件主要来自福建、广东、江苏、浙江、山东、河北、陕西、湖北、安徽、江苏和上海等地。”“傅兰雅仔细阅读了所有的稿件，并邀请了沈毓桂、王韬、蔡尔康等知名人士参与评选作品。”（引自周欣平《序》）。最后确定得奖作品从7部增加为20部，获奖作品酬金由原定150元增加为200元。

上海古籍出版社影印的这套小说，收入小说150部（其余12部已佚）。除周欣平先生的《序》与卷首的书影外，共十四册八千五百四十四页（650、723、788、522、524、597、500、620、538、558、514、544、702、768）。全书根据征文原手稿影印，全部是毛笔竖排书写。此书扉页有如下文字：

本书原稿为柏克莱大学图书馆收藏。除获柏克莱加州大学书面允许外，不得在任何地区、以任何形式、任何文字翻印、仿制或转载本书文字或图像。

故近期难于见到排印本。

笔者有意尽读此书，因其为手写书稿、首先是读获奖作品“序”。现钞录其“序多无标点，且又数量过大，有“老虎吃天，文”并标点于下。若句读有误，盼方家教无从下口”之感。故先从读获奖作品开始，我。

获奖作品简况：

名次	书 名	作 者	篇 幅	奖 金	册
第一名	(已佚)	茶阳居士		五十元	
第二名	澹轩閒话	詹万云	四卷十四回	三十元	一
第三名	五更钟	李钟生	十一卷二十二回	二十元	一
第四名	扞蝨偶谈	青莲後人	上下卷十回	十六元	二
第五名	(已佚)	鸣皋氏		十四元	
第六名	时新小说	望国新	四卷四十回	十二元	二
第七名	达观道人閒游记	格致散人	上下卷十四回	八元	二
第八名	时新小说	胡晋修	五卷十回	七元	二
第九名	无名小说	刘忠毅	十二回	六元	三
第九名	时新小说	杨味西	四卷三十回	六元	三
第十名	(已佚)	张润源		五元	
第十名	(已佚)	枚甘老人		五元	
第十一名	(已佚)	殷履亨		四元	
第十一名	瓢盪新谈	倜傥非常生	四卷二十八回	四元	三
第十二名	新趣小说	朱正初	八回	三元	四
第十二名	醒世新书	醒世人	上下卷十二回	三元	四
第十三名	缠足明鉴	廖卓生	一册	二元	四
第十三名	醒世时新小说石琇全传	罗懋兴	上下卷九回	二元	五
第十四名	甫里消夏记	瘦梅词人	十六回	一元半	五
第十四名	新趣小说	陈义珍	四卷二十回	一元半	五

获奖作品《序》

一、第一名

书 名：已佚 篇 幅：不明
 作者姓名：已佚 作者署名：茶阳居士
 奖 金：五十元
 作 品：已佚

二、第二名：

书 名：澹轩閒话 篇 幅：四卷十四回
 作者姓名：詹万云 作者署名：香山澹轩
 居士詹万云
 奖 金：五十元
 作 品：

封面:

时新小説 香山澹軒居士詹万云(第一册、P、一)

首页 (第一册、P、二)

仆不能自作小楷，是书脱稿後本拟倩人代钞。限于资斧，不克举办。不得已手录一过，行草间雅，塗鴉满纸。文既未必可观，写复使人厌视。如此献丑，诚自知不如其己也。

澹軒居士漫书

序言 (第一册、P、五一八)

澹軒閒话自序

中国自开辟以来，数千百年，久为口(馨?)明文物之邦，为海外列邦所钦仰。乃凌夷至今日，国日以困，民日以贫，人才日以不振。以视他国之駸駸富强、日盛月新者，不可同日而语矣。间尝身考其受病之源，而知国困民穷之故，实是由鴉片之害遍于天下而无药以救之；又加人才不振之故，实是由学士大夫竞习时文以为弋取科名之具，而未尝致力于经济实学也。然是二者为害较钜，中国有识之士亦能知而言之。独女子缠足一事，以为观美则未必果美，以为足以紮制妇人，不使出闺门一步，则缠足之妇固未必其悉贞节也。而一经缠足，遂使幼女大受夷伤，妇人终身则废，平日一举一动，既已不便，猝有祸变，待毙而已。其害虽不至此。洋烟之毒，使人人遍受其害；时文之误尽儒生，使人空疎无补，所学非所用。而中国之大，曾未有人大声疾呼挽回此弊，与洋烟时文相提并论者，岂非习焉不察欤？

英国傅蘭雅先生怒焉忧之，期得中国通人著成一书，以发明此三大弊。使人之阅是书者，皆有以感触于中，咸知去其旧染以启新机，上而天子、下而匹夫匹妇，同心协力，共除积患，俾中国从此可转弱为强、变贫为富，而人才日以振兴，闺阁不至受苦，是皆傅君嘉惠我国之

厚意也。

余不敏辄述其意成书。既而思之，中国之弊乃至貽外邦人之忧而口(蓄?)所以祛弊之法，又不得已而思及著书一层，以为觉世牖民尚赖有此，而吾国之览是书者，或视同游戏之文，将与寻常稗官野史一例共视，是不负傅君惓惓中国代为隐忧之意，且以予浪费笔墨、自鄙无讥矣！古人有云：我期託之空言，不如见之行事之深切著明也。是则余与傅君著书之意，而阅是书者其亦鉴此苦衷欤？

时在光绪乙未孟秋下浣香山澹軒詹万云谨识

三、第三名:

书名: 五更钟 篇幅: 十卷二十回

作者姓名: 金陵李钟生

作者署名: 冷眼热肠人

奖金: 二十元

作品:

封面: (第一册、P、二八九)

五更钟 共十卷式十回

金陵李钟生撰 住城内

北门桥沐府西门天成米店後

序言 (第一册、P、二九一一二九二)

序

或问: 小说书其尽不可看乎? 曰: 非也。其淫词艳语坏人心术、迷人神智。此小说之不可看者也。如乃寓褒隐劝惩，挽颓风、警恶俗，此小说书之不可不看者也。或曰: 古来圣经贤传，有关乎世道人心者，何限胡须乎小说。曰: 圣经贤传，惟士大夫之文雅者可看，为之能解也。至于商贾农工妇女童稚粗知文义，使其日执经书而阅之，必茫然莫解，倦而思卧耳。惟以俗流小说之体，寓圣贤觉世之心，本乎近时之实事，其文粗而浅，能令妇孺都解其义正而大，能令积习挽回，是其用心之苦，救世之

殷，不得以小说而薄之也。是为序。

光绪二十一年岁次乙未孟秋月书

是书有“五更钟卷之首・凡例”四则。
(略)

是书有“五更钟卷之首・读法”二十则。
(略)

是书目录首页署名：冷眼热肠人

四、第四名：

书 名：扞蝨偶谈 篇 幅：上下卷十回
作者姓名：未知 作者署名：古润青莲後人
奖 金：十元
作 品：

信封 (第二册、P、一)

内时新小说两册敬祈 飭交三马路 交
格 致 书 室 先生 收 启

随到随送请勿迟滞 再请守取收条寄
下口所顿祷 镇 江 寄

序言 (第二册、P、三一五)

例言八则

一、是书专言鸦片、时文、缠足之弊。故于此
三项或单行，或合叙、或正言、或旁衬。
语不离宗，不复言及他事者，虑夹杂也。
间有点缀景物、采择时事，亦只二三处，
不敢赘述，致背命题之意。

一、是编本为醒世而作，无事铺张扬厉。凡向
来小说中浮词泛语，一概删除。故书只十
回，不以贵多为贵。

一、稗官野史每有(多)俚语方言，音义间有
不同，语气不无少异。阅者不以一字而害
一句之义，则幸甚哉。

一、是编明白如话，不尚文义者，欲令妇人孺
子阅而易知也。故于一切绮语庾词不敢阑
入。

一、坊本说部，如海上仙山，大半虚无缥缈。

是书事则或有其事，不明言其人者，虑貽
文字之祸。故地名人人名尽行改易。

一、向来著小说书者，每一回之前，开首必填
一词或系以诗。中间叙事或有歌，或赋，
亦有四六联、长短句不等。煞尾必缀以七
言二句，此旧例也。是编平铺直叙，不复
沿此体例。以意在醒世，不欲以词藻擅长。

一、书中人名，多系随意掇拾，毫无成心。倘
有与海内君子姓字暗合者，尚其谅之。

一、是篇匆促成书，未遑细绎。其中起伏照应，
以及前後篇法，自知多失枝脱节之处，尚
祈阅者匡其不逮焉。

五、第五名

书 名：已佚 篇 幅：不明
作者姓名：已佚 作者署名：鸣皋氏
奖 金：十四元
作 品：已佚

六、第六名

书 名：时新小说 篇 幅：四卷四十回
作者姓名：望国新 作者署名：望国新
奖 金：十四元
作 品：

封面：时新小说卷一

(第二册、P、一八七)

序言 第二册、P、一八九—一九)

凡物不得其平则鸣。草木之无声，风挠之
鸣；水之无声，风荡之鸣。其跃也，或激之；
其趋也，或梗之；其沸也，或炙之。金石之无
声，或击之鸣，人之于言也亦然。有不得而及
言，其歆也，有思其哭也；有怀凡出于口而为
有声，其皆有弗平者乎！孔子伤周，以春秋
鸣；屈原放楚，以离骚鸣。时事之感人亦甚矣
哉，又安得不鸣者乎？

仆生斯世，阅人阅世多矣，而最不平者莫如三端，盖鸦片、缠足、时文之为害，其累人也实深，而人之固明知其非而必蹈之。此其最为不平者也。顾挟其才鸣，则词或深而难明；逞其巧鸣，则事又虚而不实，是欲鸣又有难于鸣者也。仆本无可鸣之资，无善鸣之兴。所以不得不鸣者，殆时事有以激之而迫于不容己，亦聊以存实事求是之心，而冀高明者有以补予拙而修饰之，使鸣之者得有裨益乎，斯世则幸甚。

光绪乙未年孟秋三月下浣六日望国新自叙

2010年世界林纾文化研究文献目录

苏建新

1. 林纾的西学观。(河北师范大学文学院)张俊才 福建工程学院学报2010年5期
2. 林纾的“中学”观。张俊才 福建工程学院学报2010年2期
3. 林纾文化立场的再认识。张俊才 河北师范大学学报(哲学社会科学版)2010-11-15
4. 林纾：文化歧路上的徘徊者和探索者。(淮南师院)胡煥龍 学术界2010年01期
5. 中西文化融合背景下林纾对中国传统文化的反思。(九江学院政法学院)姚建平;龚连英 宜春学院学报2010-05-25
6. 论林纾的儒者人格。龚连英;姚建平。红河学院学报2010-10-28
7. 林纾的国民性焦虑。(中共广西自治区党校文史教研部)马德翠 湖北师范学院学报(哲学社会科学版)

2010-05-26

- 8 论林纾的女权思想。马德翠 江汉论坛2010-09-15
- 9.1919年：一段非同寻常的历史——《新青年》6卷2号一则“启事”背后“史实”考辨。(汕头大学文学院)陈方竞 社会科学战线2010-04-01
- 10.为“文化五四”辩护——两个“五四”的不同境遇与价值差异。(吉林大学文学院)张福贵 吉林大学社会科学学报2010年3期
- 11.徐树铮:现实中的“荆生”?——兼谈五四新文化运动。(南京大学)王彬彬 同舟共进2010-06-01
- 12.现代文人的隐与痛。(自由撰稿人)孙玉祥 中国友谊出版公司2010年
- 13.游移于互助与竞争之途——钱玄同偏激思想源流考。(广西民族大学文学院副教授)魏际洲 南方文坛2010年1期
- 14.陈独秀抨击“桐城派”探因。(巢湖学院中文系)方习文 安庆师范学院学报(社会科学版)2010-10-25
- 15.再评新文学论争中的林纾。(郑州大学文学院;江西师范大学文学院)季雪;余霞 青年作家(中外文艺版)2010-09-16
- 16.另一半的“五四”。(青年学者)王学斌 中国经营报 2010-05-10
- 17.决绝与眷恋:清末民初社会心态与文学转型。(南开大学)耿传明 复旦大学出版社2010年
- 18.五四新文化运动中的林纾。(中国社会科学院近代史所研究员)马勇 团结报2010-06-17
- 19.《谁领导了1916-1920的中国文学革命?》。程巍 《中国图书评论》2010年第3期
20. 林纾与五四新文化派之争史事编年。张俊才。清末小説2010.12.1, 总第33号
- 21.對蔡元培〈答林君琴南函〉的一點質疑 李慶國 清末小説から 第96号2010.1.1(PDF)
- 22 解析五四“文学革命”疑案 李慶国 『追手門学院大学 国際教養学部紀要』第3号2010.1.30
- 23.Lin Shu's Choice and Response in Translation from a Cultural Perspective. (School of Foreign Languages, Taizhou University, Zhejiang) Wanlong Gao *The Journal of Specialised Translation* Issue 13 http://www.jostrans.org/issue13/art_gao.php
- 24.Research on the translator of Xinxu xiantan as the first translated fiction in China.txt Guoyi Wu (鄂国义 第

- 一部翻譯小説《昕夕閑談》譯事考論) Revised and translated from *Zhonghua wenshi luncong* 中华文史论丛 (*Journal of Chinese Literature and History*), 2008, (4):285 - 8_C_348 by YAO Zhenjun *Frontiers of Literary Studies in China*, 2010
25. 林纾小说翻译研究。华东师大外语学院 刘宏照。2010年博士论文。
 26. 透过《巴黎茶花女遗事》的形象重塑看翻译的重塑力。孙敏《大家》2010年21期
 27. 从林译《巴黎茶花女遗事》看译入语意识形态和诗学对翻译的影响。刘园 【中南大学硕士论文】2010-05-01
 28. 从话语修辞角度观林纾翻译归化现象——以林纾《黑奴吁天录》中译本为例。(福建师范大学外国语学院) 林佩璇 福建工程学院学报5期2010-10-10
 29. 从林纾翻译《黑奴吁天录》看译者的翻译目的。(西北师大) 潘悦。文教资料2010年11月号中旬刊
 30. 从翻译适应选择论视角解析林译《黑奴吁天录》。(长沙理工大学外国语学院) 边立红;王鹏。牡丹江大学学报2010-01-25
 31. 从多元系统理论看林译《黑奴吁天录》。(华中师大) 任娟娟。湖北广播电视大学学报2010年1期
 32. 从意识形态角度再论林纾《黑奴吁天录》。(合肥工大) 孙艳燕。中国科教创新导刊2010年4期
 33. 翻译和权力的双向互动：以林译《黑奴吁天录》为例。张文龙【山东大学硕士论文】2010-04-10
 34. 晚清语境借西方文学生成的自我镜像。中南林业科技大学; 四川理工学院 何敏;何清。求索2010年3期
 35. Translation and Refraction: Reconstruction of Tom's Cabin in the Twentieth Century China. 김소정(Kim So-jung). 中語中文學 第46輯,2010.6
 36. 《希腊名士伊索寓言》背后的文化操纵和制控。(贵州大学外国语学院) 杨丹屏。时代文学(下半年)2010-02-15
 37. 《迦茵(茵)小传》两译本异同原因之探究。(上海大学外国语学院) 杜俊芳。大舞台2010-11-20
 38. 论杨、包译《迦茵小传》的创造性叛逆及其相关问题。牛津大学 刘倩。楚雄师范学院学报 2010-11-20
 39. 似是而非说迦茵：林纾译《迦茵小传》中迦茵形象的修辞解读。福州大学外国语学院潘红。西安外国语大学学报2010-09-01
 40. 时代的变迁与文化的融合——从操控论的角度探讨《迦茵小传》译本的杂糅现象。福建医科大学外语教学部 叶荷。赤峰学院学报(汉文哲学社会科学版)2010-01-25
 41. 认知图式与文本的修辞建构——以《撒克逊劫后英雄略》中三则比喻的修辞设计为例。(福州大学外国语学院) 潘红。中国文学研究2010年3期 2010-07-31
 42. 林译小说对中国叙事文体的影响——以《撒克逊劫后英雄略》的文本视角特点为例。潘红。福州大学学报2010 年1期
 43. 林纾译笔下的吕贝珈与《红楼梦》中尤三姐之形象解读。安徽师范大学外国语学院 罗奕。宿州学院学报2010-07-15
 44. 翻译国民性：以晚清《鲁滨孙飘流续记》中译本为例。香港大学 崔文东。中国翻译2010-09-15
 45. 论意识形态对林纾译《鲁滨孙飘流记》的影响。(安徽大学) 方韵。安徽文学2010年1期
 46. 晚清 Robinson Crusoe 中譯本考略。崔文東。清末小说通讯2010.7.1第98号
 47. 林纾转译日本近代小说《不如归》之底本考证。复旦大学外文学院 邹波。复旦外国语言文学论丛 2010-03-15
 48. 林訳小説《紅篋記》などの原作(下)。渡辺浩司。清末小説第33号 2010. 12. 1
 49. 从《现身说法》探究林纾译文“不忠”的因由。(台州学院外国语学院) 陈丽红。台州学院学报 2010-02-20
 50. 译者主体性的阐释学研究：以Gullivers+Travels 的三个中译本为例。王姗姗【天津商业大学硕士论文】2010-05-01
 51. 哈葛德小説的首篇中譯 She——從曾廣銓到林纾。郝嵐。清末小説から第97号2010.4.1
 52. 从林译狄更斯小说看林纾的翻译理论。(福建江夏学院) 黄榕。科技信息2010-10-25
 53. 狄更斯在中国的接受与影响。山东师范大学 魏桂秋。【硕士论文】2010-03-30
 54. ユゴーの漢訳名器俄について(上)。樽本照雄。清末小説から第97号2010.4.1
 55. ユゴーの漢訳名器俄について(下)。樽本照雄。清末小説から第98号2010.7.1

56. 施蛰存による林纾冤罪事件。樽本照雄。清末小説から第96号2010.1.1
57. 从多元系统论角度阐释影响晚清小说翻译策略的文化原因。(中国矿业大学)黄雅兰。《考试周刊》2010年4期
58. 多元系统理论对译介活动的阐释力和局限性。(林纾 鲁迅)海南大学.刘进军。科技展望2010年8期
59. 多元系统理论视野下林纾的翻译—以《艾凡赫》为个案研究。中国石油大学 何红。硕士论文
60. 巴赫金对话理论视野下的林纾翻译解读。(湖南科技大学)文月娥。西安电子科技大学学报2010年6期
61. 从翻译的对话性角度看晚清小说翻译:以林纾的翻译为例。合肥工业大学 程博【硕士论文】2010-04-01
62. 从Toury翻译规范理论看林纾翻译。(河南大学外国语学院)王淼。赤峰学院学报(汉文哲学社会科学版)2010-01-25
63. 从翻译适应选择论视角解析林纾翻译特色。西北工业大学人文与经法学院 阮红梅;刘肖叶。石家庄铁道大学学报(社会科学版)2010-08-30
64. 翻译适应选择论下的林译小说。长沙理工大学外国语学院 罗天靓。宜宾学院学报2010-09-25
65. 从接受美学视域看林译《茶花女》。盐城师范学院外国语学院 孙开建。名作欣赏2010-11-01
66. 林译小说接受美学视角的解读与启示。湖南科技大学外国语学院 文月娥。中国矿业大学学报(社会科学版)2010-09-25
67. 后殖民翻译理论视角下的林纾翻译观探析。华中科技大学外国语学院 刘洋;黄勤。外语教育2010-03-15
68. 试析林纾的食人主义翻译思想。郑州大学外国语学院 崔彩卉。安徽文学(下半月)2010-07-23
69. 目的论映照下的晚清维新派翻译行为研究(严复 Lin Shu 梁启超)。湖南农业大学 刘愷文【硕士论文】2010-06-05
70. 对林纾“翻译”的质疑。苏州工艺美术职业技术学院外语部;复旦大学 万宗琴。重庆科技学院学报(社会科学版)2010-07-08
71. 从伪译的视角看林纾的翻译。赵护林。外语艺术教育研究2010年3期
72. 从翻译伦理看林译小说中“误译”的理据。湖南科技大学 罗虹【硕士论文】2010-04-12
73. “误译”探究。郑州经贸职业学院 吴双。河南农业2010-11-15
74. 林纾翻译之“讹”。四川外语学院 蒋雯雯。文学界(理论版)2010-08-25
75. 晚清翻译小说的误读、误译与创造性误译考辨。浙江大学外国语学院;浙江旅游职业学院外语系 裘禾敏。外国语(上海外国语大学学报)2010-07-20
76. 林译的认同错位与文化调和。福建师范大学文学院 杨玲。中国社会科学报2010-03-23
77. 从林译现象看文学翻译实质——浅议翻译教学改革。西北大学 刘梅【硕士论文】2010-04-01
78. 浅议林纾的翻译思想。河北大学外国语学院 于峰。安徽文学(下半月)2010-04-15
79. 从诗无达诂看译者的主体性:以林纾的翻译为例。四川农业大学语言学院;成都理工大学工程技术学院 戢焕奇;张谢。西南科技大学学报(哲学社会科学版)2010-06-15
80. 晚清的翻译大师林纾与“林译小说”。兰州理工大学 王盛;康建东。兰台世界2010-06-01
81. 文化视野下林纾及其译介活动评述。淮阴师范学院外国语学院 袁素平。安徽工业大学学报(社会科学版)2010-07-15
82. 归化的语言,异化的思想——中西文化碰撞中的林纾翻译。中国民航大学外国语学院 陈淑仪。淄博师专学报2010年2期2010-06-28
83. 林纾文言体翻译小说的审美特征与文化阐释(释)。张瑞华。语文教育研究2010年8期
84. 翻译视域下的林纾现象——兼论林纾的翻译。四川外语学院研究生部;吉首大学公共外语教学部 黄元军;安东阳。重庆邮电大学学报(社会科学版)2010-03-15
85. 林纾翻译动机再分析。长沙理工大学外国语学院 王鹏。湖北第二师范学院学报2010-09-20
86. 林纾翻译小说的译介学研究。湖南师范大学 张立红。【硕士论文】2010-06-01
87. 吟邊燕語留餘韻——林譯小説書、篇名一瞥。李慶國。清末小説第33号2010.12.1
88. 严复与林纾译作对近代中国的影响。湖南农大 苏超。湖南农业大学学报(社会科学版)2010年6期
89. 文学翻译标准的社会性:再读林纾、严复作品有感。浙江财经学院 刘明。考试周刊2010年第17期
90. 论成功的翻译:再读林纾、严复作品有感。刘明。

- 绍兴文理学院学报2010年6期
- 91.多元系统理论视阈下译者翻译策略的选择——以清末闽篇翻译家严复、林纾译作探析其解释力。华侨大学外国语学院英语系 许春翎。南昌教育学院学报 2010-06-30
- 92.中国近代翻译中的知识与政治——以严复和林纾为例。中国社会科学院文学所 李扬。济宁学院学报 2010-04-20
- 93.译者主体性该如何发挥——比较鲁迅与林纾的启示。广东商学院华商学院外语系陶兰。长春理工大学学报(高教版) 2010-03-15
- 94.从林纾、鲁迅的翻译看翻译批评的多重视野。刘云虹。外语教学2010年6期
- 95.从多元系统论看鲁迅的异化翻译理论。湖南科技大学 欧阳桃。当代教育理论与实践2010年3期
- 96.文化视野下中西译坛奇才——林纾、庞德之比较。淮阴师范学院外国语学院 袁素平。时代文学(上)2010-08-15
- 97.苏曼殊翻译实践述评。黄元军、覃军。佛山科学技术学院学报(社会科学版) 2010年01期
- 98.也谈《林纾的翻译》：林纾翻译作品中创造性叛逆的再审。郑州大学外语学院 林娜。安徽文学(下半年)2010-10-23
- 99.读《林纾的翻译》：从异化角度看林纾的翻译策略及对文本的选择。巢湖学院大学外语教学部 江淑婧、邓新梅。科技信息2010-07-15
- 100.译与讹，讹与化——也谈钱锺书先生之《林纾的翻译》。延边大学 申星钰。延边党校学报2010-08-20
- 101.汉化译名目的语文化对翻译的制约。王青。河南社会科学2010年1期。林纾对《莎士比亚故事集》另立新名的翻译策略。
- 102.翻译当中的一支奇葩——解构创译。长沙理工大学外国语学院 滕国立 鸡西大学学报2010年3期2010-06-20。“林纾的翻译也是一个典型的例子”。
- 103.谈文学名著缩写本。陆琳。信息系统工程2010.10.20。“林译小说”从严格意义上讲，也是一种改写本
- 104.零度翻译与翻译偏离。高圣兵、辛红娟。南京农业大学学报2010年1期。林纾的翻译绝对不是“零度翻译”，但起了“媒”的作用。
- 105.传统文学观念与外国小说的近代接受。程华平、程华林。中国比较文学2010年1期。林纾的古文翻译对国人接受外国小说起了至关重要的作用。
- 106.晚清翻译小说研究Literary Translation: Late Qing Fiction Translations. 尹宝卿(Bo-kyung Yoon)。中國語文論譯叢刊 第26輯,2010.1:3~655(640pages)。这个时期在翻译小说方面作出最大贡献的作家是林纾(1852~1924)和严复(1853~1921)
- 107.Topics for Research discussions 6.Make a critique of 林纾's perspective of translation,translation criteria and translation theory 。UNSW Arts and Social Sciences ARTS2452 session 1,2010 中英繙譯雜誌。
- 108.浅谈林纾与口译者的合作翻译模式。高攀。《复旦外国语言文学论丛》2010 年研究生专刊。有“译才并世数严林”之誉的林纾，作为一个不懂外语的翻译家，一生译著180部小说，得益于与他合作的口译者们的帮助。本文运用三幅图对该合译模式的具体过程进行了剖析，对林译小说中的“讹”有了新的解读。同时，本文阐释了口译笔受合作翻译模式的优势和局限性：优势在于能取长补短，同时发挥口译者的外语专长和笔受者的中文功底；局限性表现在对原作的理解和译作的表达由两人完成，容易造成误译，而且缺乏相互监督的机制。
- 109.不忠之美——浅议林译书名的翻译。熊茜超。《复旦外国语言文学论丛》2010年研究生专刊。我国翻译界名家戈宝权先生在他的《漫谈译事难》一文中提到译事有五难，其中有一难就是与书名、标题的翻译有关，即“翻译书名难”。和正文的翻译相比，书名翻译所遵循的原则和方针又略有不同。书名的翻译看似没有文本翻译这样卷帙浩繁，其实也是举足轻重，劳心费神。本文试图以林译小说的书名翻译为切入点，结合钱锺书先生的文章，探究书名翻译中的不忠之美。
- 110.林纾的译才与丹青梦。兰若。市场瞭望第521期，2010年6月下
- 111.六位“小名头”书画家极具市场潜力。上海 好运东方收藏2010-08-15
- 112.两幅特写画 一段友情缘：林琴南、张之汉赠谈国桓画卷史话。张英 收藏家2010-06-01
- 113.略论林纾花鸟画的演变。龚任界。福建工程学院学报2010年2期
- 114.“为斯文一线之延”的“风雅”之争——论林纾的古文观及其历史际会。(上海师大博士生) 高兴 北

- 京理工大学学报2010年6期
- 115.林纾传记文史传艺术探析。(福州大学人文社会科学学院) 卓希惠 集美大学学报(哲学社会科学版) 2010-07-28
- 116.论林纾的山水游记文学 刘素萍 《青年文学家》 2010 年19 期
- 117.末世悲悯与救世之音:漫谈林纾《闽中新乐府》(长春师范学院研究生院副教授历史学院研究生) 姜国 郭建鹏 作家杂志2010年1期
- 118.林纾叙事思想试探。(湖南师范大学文学院) 赵炎秋 文学评论2010-03-15
- 119.论林纾对中外小说艺术的比较研究.韩洪举 2010 年中国文学传播与接受国际学术研讨会论文集汇编(中国古代文学部分) 2010-08-21
- 120.林纾副文本的文学思想.(广东商学院; 湖南师范大学) 周小玲 求索2010-05-31
- 121.林纾和他的《修身讲义》 毕苑 团结报2010-05-13
- 122.论林纾的爱国教育思想.(福建工院)张丽华 怀化学院学报2010年
- 123.民族意识与二十世纪中国文学。(第二章第三节林纾) 湖南大学 李宇梁 【硕士学位论文】2010-04-29
- 124.林纾与黑龙江名流的交往 (黑龙江省地方志办公室) 柳成栋 黑龙江日报2010年04月08日
- 125.林纾与东北名流的诗文交往.柳成栋 东北史地2010-05-10
- 126.严复和他的朋友们(三):林琴南 (南开大学文学院) 李新宇 名作欣赏 2010-12-01
127. 林纾在京寓所新考.苏建新 福建工程学院学报 2010年2期
- 128.晚清小说广告的类型及其创意设计.谢仁敏《阅读与写作》2010年03期/商务对林译小说的推广, 打名人牌
- 129.清末民初小说目录第4版(CD ROM) 樽本照雄。
- 130.半遮面的美人与媒人——读任淑坤《五四时期外国文学翻译研究》.河北大学历史学院; 河北省社会科学院; 石家庄学院元氏分院 把增强; 李书文 社会科学论坛2010-04-10
- 131.评一种“刀笔”手法(评张耀杰《历史背后:政学两界的人和事》).南京大学中国现代文学研究中心 王晴飞 文艺争鸣2010-11-15
- 132.2009林纾研究述评.苏建新.闽江学院学报2010年6期。
- 133.《林纾研究专栏》编后语。编辑部。福建工程学院学报2010年2期
- 134.国学新读本(上下) 朱晓慧主编 中国社会科学出版社 2010 年。内收畏庐文集 答蔡元培信 清史稿林纾严复辜鸿铭传
- 135.赣州·中国近代文学年会交流论文 林纾——一个文化保守主义者。张俊才
- 136.《林纾与〈东方杂志〉》。南开大学就读的王勇博士
- 137.《汪康年铅印林译〈茶花女〉考论》。复旦博士毕业的张天星先生
- 138.《有意的“误读”》。中国社科院博士后流动站的张惠女士
- 《中、日09’林纾研究述评》。本人提交
- 附录:作者、刊物排行榜
- 据笔者不完全统计,2010年中外林学研究成果在两篇以上的有10余位作者:
- 张俊才:林纾的“中学”观、林纾的西学观、林纾文化立场的再认识、林纾与五四新文化派之争史事编年、林纾——一个文化保守主义者。
- 李慶國:吟邊燕語留餘韻——林譯小說書、篇名一瞥,解析五四“文学革命”疑案、對蔡元培〈答林君琴南函〉的一點質疑。
- 潘红:认知图式与文本的修辞建构——以《撒克逊劫后英雄略》中三则比喻的修辞设计为例、林译小说对中国叙事文体的影响——以《撒克逊劫后英雄略》的文本视角特点为例、似是而非说迦茵:林纾译《迦茵小传》中迦茵形象的修辞解读。
- 樽本照雄:施塾存による林纾冤罪事件、ユゴーの漢訳名器俄について(上下)。
- 崔文东:晚清 Robinson Crusoe 中譯本考略、翻译国民性:以晚清《鲁滨孙飘流续记》中译本为例。
- 马德翠:论林纾的女权思想、林纾的国民性焦虑。
- 文月娥:巴赫金对话理论视野下的林纾翻译解读、林译小说接受美学视角的解读与启示。
- 刘明:文学翻译标准的社会性:再读林纾、严复作品有感,论成功的翻译:再读林纾、严复作品有感。
- 柳成栋:林纾与东北名流的诗文交往、林纾与黑龙江名流的交往。
- 苏建新:2009年林纾研究述评、林纾在京寓所新考。

龚连英、姚建平：论林纾的儒者人格、中西文化融合背景下林纾对中国传统文化的反思。

限于笔者所知，中外2010年发表林学论文的刊物据不完全统计，主要有八家：

1. 清末小説から(通訊)及清末小説(8篇)：施蛰存による林纾冤罪事件、對蔡元培〈答林君琴南函〉の一點質疑、ユゴーの漢訳名器俄について(上下)、哈葛德小説の首篇中譯 She——從曾廣銓到林纾、晚清 Robinson Crusoe 中譯本考略、林訳小説《紅篋記》などの原作(下)、吟邊燕語留餘韻——林訳小説書、篇名一瞥、林纾与五四新文化派之爭事編年。
2. 福建工程学院学报(6篇)：林纾的西学观、林纾的“中学”观、从话语修辞角度观林纾翻译归化现象——以林纾《黑奴吁天录》中译本为例、略论林纾花鸟画的演变、林纾在京寓所新考、《林纾研究专栏》编后语。
3. 安徽文学(文教研究)(4篇)：也谈《林纾的翻译》——林纾翻译作品中创造性叛逆的再審、试析林纾的食人主义翻译思想、浅议林纾的翻译思想、论意识形态对林纾译《鲁滨孙飘流记》的影响。
4. 科技信息(科学·教研)(2篇)：从林译狄更斯小説看林纾的翻译理论、读《林纾的翻译》——从异化角度看林纾的翻译策略及对文本的选择。
5. 青年文学家(2)：论林纾的山水游记文学、钱钟书翻译观浅析。
6. 考试周刊(2)：文学翻译标准的社会性——再读林纾、严复作品有感、从林纾的翻译思想看林译小説的地位和影响、从多元系统论角度阐释影响晚清小説翻译策略的文化原因。
7. 时代文学(2)：文化视野下中西译坛奇才——林纾、庞德之比较、《希腊名士伊索寓言》背后的文化操纵和制控。
8. 赤峰学院学报(原《昭乌达蒙族师专学报》)(2篇)从Toury 翻译规范理论看林纾翻译、时代的变迁与文化的融合——从操控论的角度探讨《迦茵小説》译本的杂糅现象。 □

原載《近代文学琴声》第6期2011

清末小説から

野間信幸氏より資料の提供を受けました。感謝します

- 武田雅哉代表 『包天笑『釧影楼回憶録』訳注』第1冊『釧影楼回憶録』訳注プロジェクト2011.3.20
- 有澤晶子 外国語ができない林纾による超絶翻訳と嚴復による翻訳論「第5章翻訳論」『比較文学 比較を生きた時代 日本・中国』研文出版2011.7.11
- 池田智恵 「犯罪」を消費する読者と『時事新報』「黒幕」欄 中国近代探偵小説研究への視座として『野草』第88号2011.8.1
- 顏瑞芳編著 《清代伊索寓言漢訳三種》導論『清代伊索寓言漢訳三種』台湾・五南圖書出版股份有限公司2011.3
- 李 艶麗 「美男」の誘惑 清末写情小説の「文弱」な男性像についての解説 東京大学大学院総合文化研究科『アジア地域文化研究』第6号2010.3.31
- 「女中華」の構築 清末写情小説、新女性小説をめぐって 東京大学大学院総合文化研究科『アジア地域文化研究』第7号 2011.3.31
- 王 永健 《説倭伝》平議『明清小説研究』2011年第2期(総第100期)2011発行月日不記
- 王学哲、方鵬程 『商務印書館百年經營史(1897-2007)』武漢・華中師範大学出版社2010.6
- 范 軍 台湾出版人眼中的百年“商務”『出版史料』2011年第2期(新総第38期)2011.6.25
- 汪 家熔 中国出版史的幾種資料彙編等『出版史料』2011年第2期(新総第38期)2011.6.25
- 鍾 桂松 陸費達与現代教育『出版史料』2011年第2期(新総第38期)2011.6.25

張 人鳳 《張元濟全集》(十卷本) 編後記
『出版史料』2011年第2期(新総第
38期) 2011.6.25

吳 泰昌 辛亥文談 2 元戎兼詩人の黄興
/ 宣伝《猛回頭》被殺一郷民『出版
史料』2011年第2期(新総第38期)
2011.6.25

王宏志 『翻譯与文学之間』
南京大学出版社2011.2

“以中化西”及“以西化中”：從翻譯看晚清
对西洋小説の接受

文言与白話 晚清以来翻譯語言の考察

“人的文学”之“哀弦篇”：論周作人与《域
外小説集》

能夠“容忍多少的不順”？論魯迅的“硬訳”
理論

『中国現代文学研究叢刊』2011年第1期
(総第138期) 2011.1.15

文学翻譯如何進入文学革命 “Literature”
概念的訳介与文学革命的發生……李 春
從“冒險”魯濱孫到“中庸”魯濱孫 林紓
訳介《魯濱孫飄流記》的文化改写与融通
……李 今

『中国現代文学研究叢刊』2011年第2期
(総第139期) 2011.2.15

文学・政治・想像 晚清政治小説与普羅小
説的同質化特徴 ……劉 暢

『中国現代文学研究叢刊』2011年第3期
(総第140期) 2011.3.15

給新文学史重新断代的理由 關於“民国文
学”構想及其它的幾点補充意見…丁 帆

『中国現代文学研究叢刊』2011年第4期
(総第141期) 2011.4.15

中国現代連載小説の文体意識和文体結構
……李 春雨

戯曲改良：媒体策略与啓蒙困境 ……楊 早
“民国文学”の理論維度及其文学史編写

……王 学東

黄人《中国文学史》与《京師大学堂章程》、
《高等学堂章程》之關係發微 …温 慶新
『中国現代文学研究叢刊』2011年第5期
(総第142期) 2011.5.15

《儒林外史》の現代波瀾 ……張 蕾

樽本照雄編

清末民初小説目録 第4版

CD-ROM版 非賣品

清朝末期から中華民国初期にかけて発表
された小説作品の目録です。

新聞、雑誌の掲載から単行本になったも
のまで、各作品の履歴書となるように工夫
しています。作品の初出を知りたいばあい
に使用する工具書のひとつです。清末民初
小説研究の基本資料だといえるでしょう。

前の第3版(中国・齐鲁書社)にもとづ
き全面的に改版しました。

中国で清末民初を対象にした小説目録が
刊行されるのを待ったのです。しかし、実
現しませんでした。

何もない、というわけではありません。
新聞小説を主に集めた目録は出ています。
また、清末時期に限定して新聞雑誌小説と
単行本をあつかう目録もあります。年表形
式でも刊行されました。しかし、いずれも
部分的なものです。残念なことだといわな
くはなりません。

というわけで、清末民初にわたる総合的
な小説目録として本書は編集されました。

第4版の特徴のひとつは、新聞小説を大
量に増補したところにあります。先行研究
の成果を取り入れるように努力しました。

本第4版は、紙媒体では印刷していま
せん。CD-ROMのみの刊行です。

全文検索が可能になりました。電字版な
らではの使い方ができるでしょう。